

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コリツダイガクホシン シガダイガク 国立大学法人 滋賀大学								
フリガナ大学の名称	シガダイガクホシン 滋賀大学大学院 (Graduate school of Shiga University)								
大学本部の位置	滋賀県彦根市馬場1丁目1番1号								
大学の目的	本大学院は、学部における教養的並びに専門的教育の基礎の上に、時代の進展に対応できる教員としての専門的学識及び実践的能力を育成すること、並びに現職教員の専門的機能の一層の向上を図ることを目的とする。								
新設学部等の目的	本専攻は、これまで滋賀大学教育学部並びに大学院教育学研究科において蓄積してきた教員養成や地域教育活性化に関する多くの知見を踏まえて、実践的な教育課程と指導体制を構築し、高度な実践的指導力を備えた質の高い専門家教員を育成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	教育学研究科 (Graduate School of Education)	2年	35人	—	70人	教職修士 (専門職) (Master of Education)	令和3年4月第1年次	滋賀県大津市平津2丁目5番1号	
	高度教職実践専攻 (Advanced Professional Development for Teachers) 計	2	35	—	70		令和3年4月第1年次	14条特例の実施 教職大学院 教職大学院	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>【大学院】</p> <p>教育学研究科 学校教育専攻 (修士課程) (△35) 高度教職実践専攻 (専門職学位課程) (△20) ※ (令和3年4月学生募集停止)</p> <p>データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 (博士前期課程) [定員増] (20) (令和3年4月)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	教育学研究科高度教職実践専攻	講義	演習	実験・実習	計	46単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	教育学研究科 高度教職実践専攻 (専門職学位課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
			18人 (18)	9人 (9)	1人 (1)	0人 (0)	28人 (28)	0人 (0)	54人 (54)
	分	計	18人 (18)	9人 (9)	1人 (1)	0人 (0)	28人 (28)	0人 (0)	—人 (—)
			13人 (13)	—人 (—)	—人 (—)	—人 (—)	—人 (—)	—人 (—)	—人 (—)
	既設	経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程)	20人 (20)	10人 (10)	0人 (0)	0人 (0)	30人 (30)	0人 (0)	—人 (—)
		経済学研究科 経営学専攻 (博士前期課程)	8人 (8)	13人 (13)	0人 (0)	0人 (0)	21人 (21)	0人 (0)	—人 (—)
		経済学研究科 グローバル・ファイナンス専攻 (博士前期課程)	4人 (4)	5人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	9人 (9)	0人 (0)	—人 (—)
		経済学研究科 経済経営リスク専攻 (博士後期課程)	29人 (29)	16人 (16)	0人 (0)	0人 (0)	45人 (45)	0人 (0)	1人 (1)
		データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 (博士前期課程)	11人 (11)	10人 (10)	0人 (0)	0人 (0)	21人 (21)	0人 (0)	0人 (0)
分	計	81人 (81)	64人 (64)	0人 (0)	0人 (0)	145人 (145)	0人 (0)	—人 (—)	
		99人 (99)	73人 (73)	1人 (1)	0人 (0)	173人 (173)	0人 (0)	—人 (—)	
合計		99人 (99)	73人 (73)	1人 (1)	0人 (0)	173人 (173)	0人 (0)	—人 (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		90人 (90人)	67人 (67人)	157人 (157人)				
	技 術 職 員		7人 (7人)	0人 (0人)	7人 (7人)				
	図 書 館 専 門 職 員		3人 (3人)	0人 (0人)	3人 (3人)				
	そ の 他 の 職 員		9人 (9人)	28人 (28人)	37人 (37人)				
計		109人 (109人)	95人 (95人)	204人 (204人)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	162,440 m ²	0 m ²	0 m ²	162,440 m ²				
	運 動 場 用 地	76,930 m ²	0 m ²	0 m ²	76,930 m ²				
	小 計	239,370 m ²	0 m ²	0 m ²	239,370 m ²				
	そ の 他	109,382 m ²	0 m ²	0 m ²	109,382 m ²				
	合 計	348,752 m ²	0 m ²	0 m ²	348,752 m ²				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
		61,790 m ² (61,790 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	61,790 m ² (61,790 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	45室	44室	72室	11室 (補助職員2人)	4室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		教育学研究科		25 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	教育学研究科	655,539 [137,361] (655,539 [137,361])	20,857 [8,032] (20,857 [8,032])	4,842 [4,788] (4,842 [4,788])	12,931 (12,931)	59 (59)	0 (0)		
	計	655,539 [137,361] (655,539 [137,361])	20,857 [8,032] (20,857 [8,032])	4,842 [4,788] (4,842 [4,788])	12,931 (12,931)	59 (59)	0 (0)		
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				
		5,681m ²		510	761,000				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		5,437m ²		野球場, テニスコート, プール, 弓道場など					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			—						

大学全体

大学全体

国費による

大学等の名称	滋賀大学							
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
教育学部 学校教育教員養成課程	4	230	—	920	学士（教育）	1.04	平成9年度	滋賀県大津市平津二丁目5番1号
経済学部 経済学科 昼間主コース	4	165	3年次 5	670	学士（経済学）	1.02 0.98	平成29年度	滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号
夜間主コース	4	11	—	44		0.90		
ファイナンス学科 昼間主コース	4	55	3年次 3	226	学士（経済学）	1.00	平成29年度	
夜間主コース	4	9	—	36		0.77	平成29年度	
企業経営学科 昼間主コース	4	75	3年次 4	308	学士（経済学）	1.14	平成29年度	
夜間主コース	4	10	—	40		1.20	平成29年度	
会計情報学科 昼間主コース	4	50	3年次 3	206	学士（経済学）	1.03	平成29年度	
夜間主コース	4	9	—	36		1.21		
情報管理学科					学士（経済学）		平成2年度	
昼間主コース	4	—	—	—		—		
夜間主コース	4	—	—	—		—		
社会システム学科 昼間主コース	4	65	3年次 5	270	学士（経済学）	1.04	平成29年度	
夜間主コース	4	11	—	44		0.95		
データサイエンス学部 データサイエンス学科	4	100	—	400	学士（データサイエンス）	1.07	平成29年度	滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号
教育学研究科								滋賀県大津市平津二丁目5番1号
学校教育専攻（修士課程）	2	35	—	70	修士（教育学）	0.91	平成3年度	
高度教職実践専攻（専門職学位課程）	2	20	—	40	教職修士（専門職）	0.82	平成29年度	
経済学研究科								滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号
経済学専攻（博士前期課程）	2	13	—	26	修士（経済学）	0.64	昭和48年度	
経営学専攻（博士前期課程）	2	13	—	26	修士（経営学）	0.65	昭和48年度	
グローバル・ファイナンス専攻（博士前期課程）	2	6	—	12	修士（ファイナンス）	0.08	平成13年度	
経済経営リスク専攻（博士後期課程）	3	3	—	15	博士（経済学） 博士（経営学）	0.33	平成15年度	

既設大学等の状況

※平成29年4月学生募集停止

※令和2年度入学者定員3名減

データサイエンス研究科	2	20	-	40	修士 (データサイエンス)	1.17	平成31年度	滋賀県彦根市馬場 一丁目1番1号
データサイエンス専攻 (博士前期課程)	3	3	-	3	博士 (データサイエンス)	1.00	令和2年度	
<p>(学内共同教育研究施設等)</p> <p>名称：環境総合研究センター 目的：センターは、環境に関する学際的・総合的な研究及び教育を推進することを通じて、持続可能な社会の実現に資することを目的とする。</p> <p>所在地：滋賀県大津市平津二丁目5番1号 設置年月：平成15年4月 規模等：建築面積 353 m² 延べ建物面積 697 m²</p> <p>名称：社会連携センター 目的：センターは、市民、企業、地方公共団体等との連携を深め、本学の知的資源の組織化と活用を図ることにより、社会に開かれた大学として積極的に情報を発信し、地域社会からの信頼の醸成、教育研究活動の発展・充実に資することを目的とする。</p> <p>所在地：滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号、滋賀県大津市平津二丁目5番1号 設置年月：平成24年4月 規模等：延べ建物面積 102 m²</p> <p>名称：データサイエンス教育研究センター 目的：センターは、ビッグデータ時代における社会的、学術的な要請に応えるため、データサイエンスに関する国内外の教育研究拠点として、教育及び研究の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地：滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号 設置年月：平成28年4月 規模等：延べ建物面積 250 m²</p> <p>名称：保健管理センター 目的：センターは、本学における保健管理に関する専門的業務を行い、学生及び職員の健康の保持増進を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号、滋賀県大津市平津二丁目5番1号 設置年月：昭和53年4月 規模等：延べ建物面積 561 m²</p> <p>名称：情報基盤センター 目的：センターは、本学の研究、教育、事務等の効率的な遂行に必要な基盤となる機器並びにネットワークの運用、管理及び保守を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号 設置年月：平成2年12月 規模等：延べ建物面積 1,046 m²</p> <p>名称：高大接続・入試センター 目的：センターは、本学の入学者選抜の実施を支援し、入試に係る広報活動を行うとともに、各学部と連携・協力して、アドミッション・ポリシーに則した適切な入試方法の開発及び高大連携・高大接続教育の充実に資し、入学者の学修データ等の調査・分析を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号 設置年月：平成28年8月 規模等：延べ建物面積 42 m²</p>								

附属施設の概要

(学部附属教育研究施設)

名称 : 教育学部附属幼稚園
目的 : 附属学校は、幼児、児童及び生徒の発達段階に応じて、学校教育法(昭和22年法律第26号。)に基づき、保育又は教育を行うとともに、学部における幼児、児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、学部の計画に基づき、学生の教育実習の実施に協力することを目的とする。

所在地 : 滋賀県大津市昭和町10番3号

設置年月 : 昭和30年7月

規模等 : 敷地面積 39,451 m² (幼・小・中) 延べ建物面積 963 m²

名称 : 教育学部附属小学校

目的 : 附属学校は、幼児、児童及び生徒の発達段階に応じて、学校教育法(昭和22年法律第26号。)に基づき、保育又は教育を行うとともに、学部における幼児、児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、学部の計画に基づき、学生の教育実習の実施に協力することを目的とする。

所在地 : 滋賀県大津市昭和町10番3号

設置年月 : 昭和26年4月

規模等 : 敷地面積 39,451 m² (幼・小・中) 延べ建物面積 5,910 m²

名称 : 教育学部附属中学校

目的 : 附属学校は、幼児、児童及び生徒の発達段階に応じて、学校教育法(昭和22年法律第26号。)に基づき、保育又は教育を行うとともに、学部における幼児、児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、学部の計画に基づき、学生の教育実習の実施に協力することを目的とする。

所在地 : 滋賀県大津市昭和町10番3号

設置年月 : 昭和26年4月

規模等 : 敷地面積 39,451 m² (幼・小・中) 延べ建物面積 4,743 m²

名称 : 教育学部附属特別支援学校

目的 : 附属学校は、幼児、児童及び生徒の発達段階に応じて、学校教育法(昭和22年法律第26号。)に基づき、保育又は教育を行うとともに、学部における幼児、児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、学部の計画に基づき、学生の教育実習の実施に協力することを目的とする。

所在地 : 滋賀県大津市際川三丁目9番1号

設置年月 : 昭和53年4月

規模等 : 敷地面積 14,021 m² 延べ建物面積 2,378 m²

名称 : 附属教育実践総合センター

目的 : センターは、学生の教育実習及び就職活動等を支援し、実際的な教育問題の解決を目指して実践的研究を行い、かつ、地域の教育関係諸機関との有機的な連携を通じて、高度な実践的指導力を身につけた教員の養成・研修に寄与することを目的とする。

所在地 : 滋賀県大津市平津二丁目5番1号

設置年月 : 平成12年4月

規模等 : 延べ建物面積 36 m²

名称 : 経済学部附属史料館

目的 : 本館は歴史資料の散逸を防止し、その保存、学術的活用を図ることにより、経済史、経営史及び社会史等の関連諸学の発展に寄与することを目的とする。

所在地 : 滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号

設置年月 : 昭和42年6月

規模等 : 建築面積 353 m² 延べ建物面積 1,028 m²

名称 : 経済学部附属経済経営研究所

目的 : 研究所は、経済経営に関する内外の資料を収集し、それらに基づく調査研究を行うことを目的とする。

所在地：滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号

設置年月：昭和24年9月

規模等：延べ建物面積 61 m²

別記様式第2号 (その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学研究科 高度教職実践専攻(教職大学院))

学校経営力開発コース, 教育実践力開発コース, 授業実践力開発コース, ダイバーシティ教育力開発コース

【新設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	教育課程編成の理論と実践 授業実践の探究と教育課程	1前	2				○		1	2					共同
		1前	2				○			2					共同
	確かな学力を伸ばす指導と評価 メディア活用実践研究 滋賀の教育課題と指導方法	1後	2				○		1	2					共同
		1後	1				○			1					兼1 オムニバス方式・共同(一部)
		1後	1				○		5	1					オムニバス方式
	生徒指導・教育相談の理論と実践 ダイバーシティ教育の理論と実践	1前	2				○		3						共同
		1後	2				○			2					兼2 共同
	学びの基盤となる学級経営の探究 学校経営の理論と実践	1後	1				○			1					兼1 共同
		1後	1				○		1	1					兼1 共同
	現代社会の課題と教員役割 学校教育におけるデータサイエンス	1前	2				○		1	1					オムニバス方式・共同(一部)
		1前	2				○		2	1					兼1 共同
小計(11科目)		—	18	0	0	—	—	10	6	0	0	0	兼6		
実習科目	経営課題解決基本実習 I 経営課題解決基本実習 II 経営課題解決発展実習 地域協働実習 教育行政実習	1前		1			○		1	2				兼1 共同	
		1後		3			○		1	2				兼1 共同	
		2通		2			○		1	2				兼1 共同	
		1前		2			○		1	1				兼1 共同	
		1後		2			○		1	2				兼1 共同	
		小計(5科目)		—	0	10	0	—	—	2	2	0	0	0	兼1
	実践課題解決基本実習 I 実践課題解決基本実習 II 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習	1前		1			○		4	4					共同
		1後		3			○		4	4					共同
		2通		2			○		4	4					共同
		1前		2			○		4	3					共同
		1後		2			○		4	2					共同
小計(5科目)		—	0	10	0	—	—	4	4	0	0	0			
実践入門実習 授業実践基本実習 I 授業実践基本実習 II 授業実践基本実習 III 授業実践発展実習 学校支援実習 I 学校支援実習 II 学校支援実習 III 学校支援実習 IV 学校支援実習 V 学校支援実習 VI	1前		1			○		8	2					共同	
	1通		2			○		8	2					共同	
	1通		1			○		5	4					共同	
	2前		1			○		8	2					共同	
	2後		2			○		8	2					共同	
	1通		1			○		9	3					共同	
	1通		1			○		9	3					共同	
	1通		1			○		9	3					共同	
	2通		1			○		9	3					共同	
	2通		1			○		9	3					共同	
小計(11科目)		—	0	13	0	—	—	9	5	0	0	0			
ダイバーシティ教育基本実習 特別支援実習 フィールドワーク実習 心理アセスメント実習 ダイバーシティ教育発展実習	1前		2			○		3	1					兼1 共同	
	1前		1			○		1	2	1				兼1 共同	
	1通		2			○		2	2	1				兼2 共同	
	2通		1			○		1	2	1				兼2 共同	
	2通		4			○		3	2	1				共同	
	小計(5科目)		—	0	10	0	—	—	5	2	1	0	0	兼5	
各コース共通	海外連携校実習 I	1・2後		1			○	5	4					兼1 【隔年】共同 集中	
	海外連携校実習 II	1・2後		1			○	6	3					兼1 【隔年】共同 集中	
	小計(2科目)		—	0	2	0	—	—	6	4	0	0	0	兼1	

学校経営力開発コース	学校組織マネジメント研究	1前	2			○	2												共同	
	学校経営と教育リーダーシップ	1前	2			○	1	1											兼1 共同	
	教職員の職能開発システムに関する実践的研究	1前	2			○	1	2											共同	
	カリキュラムマネジメントと校内研修	1後	2			○	1	1											共同	
	教育政策・教育行政の理論と実践	1後	2			○	1	2											共同	
	学校安全・学校危機管理に関する実践的研究	1前	2			○	1	1											兼1 共同	
	学校と地域の連携協働に関する実践的研究	1後	2			○	1	1											} 選択必修2 共同	
	教育法規の理論と実践	1前	2			○	2													兼1
	教育実践課題解決研究Ⅰ（経営）	1前	1			○	2	2												兼1 共同
	教育実践課題解決研究Ⅱ（経営）	1後	1			○	2	2												兼1 共同
	教育実践課題解決研究Ⅲ（経営）	2前	1			○	2	2												兼1 共同
	教育実践課題解決研究Ⅳ（経営）	2後	1			○	2	2												兼1 共同
	小計（12科目）	—	0	20	0		—	3	2	0	0	0								兼2
	教育実践力開発コース	教育方法の開発と実践研究	1前	2			○		3											共同 集中
メンタリングと校内研修		1前	2			○	1	2											共同	
学校教育のアクションリサーチ		1後	2			○	1	2											共同	
社会的・職業的自立を支援する進路指導とキャリア教育		1後	2			○	2												共同	
教育実践課題解決研究Ⅰ（教育実践）		1前	1			○	3	3											共同	
教育実践課題解決研究Ⅱ（教育実践）		1後	1			○	3	3											共同	
教育実践課題解決研究Ⅲ（教育実践）		2前	1			○	3	3											共同	
教育実践課題解決研究Ⅳ（教育実践）		2後	1			○	3	3											共同	
小計（8科目）	—	0	12	0		—	4	3	0	0	0									
コース別選択科目	授業実践力開発コース	教師のキャリア発達と教育実践	1前	2			○	3											オムニバス方式・共同（一部）	
		プログラミング教育の実践と教材開発	1後	2			○	3											兼1 共同	
		初等言語教育の理論と実践	1後	2			○		2										兼2 オムニバス方式・共同（一部）	
		言語教育実践と教材開発研究	1前	2			○													兼2 オムニバス方式・共同（一部）
		古典教育と教材開発研究	1前	2			○													兼2 オムニバス方式・共同（一部）
		英米文学と英語科教材開発への応用	1前	2			○													兼1 共同
		言語学理論と英語科教材開発への応用	1後	2			○													兼2 共同
		初等社会科教育の理論と実践	1後	2			○	1												
		社会科・地理歴史科教材開発研究	1前	2			○													兼4 オムニバス方式・共同（一部）
		社会科・公民科教材開発研究	1後	2			○													兼4 オムニバス方式・共同（一部）
		初等理数教育の理論と実践	1前	2			○	1												兼2 共同・オムニバス方式（一部）
		理科の発展的理解と指導法	1前	2			○													兼6 オムニバス方式・共同（一部）
	理科観察実験研究「生命・地球」	2前	2			○													兼3 オムニバス方式・共同（一部）	
	理科観察実験研究「物質・エネルギー」	1後	2			○													兼3 オムニバス方式・共同（一部）	
	算数・数学科教材開発研究「数と形」	1・2後	2			○													兼2 【隔年】オムニバス方式・共同（一部）	
	算数・数学科教材開発研究「関数」	1・2前	2			○													兼2 【隔年】オムニバス方式・共同（一部）	
	数学の歴史を活かした数学教育	1・2後	2			○													兼2 【隔年】オムニバス方式・共同（一部）	
	数学の実験を活かした数学教育	1・2前	2			○													兼2 【隔年】オムニバス方式・共同（一部）	
	初等体育科教育の理論と実践	1後	2			○	1												兼1 オムニバス方式・共同（一部）	
	体力科学実践研究	1前	2			○	1												兼1 オムニバス方式・共同（一部）	
	健康科学実践研究	1後	2			○	1												兼1 オムニバス方式・共同（一部）	
コース別選択科目	初等生活科・家庭科教育の理論と実践	1前	2			○	1												兼5 オムニバス方式・共同（一部）	
	家庭科教育教材開発研究	1後	2			○	1												兼3 オムニバス方式・共同（一部）	
	技術科教育教材開発研究	1前	2			○	1												兼2 オムニバス方式・共同（一部）	
	初等芸術教育の理論と実践	1前	2			○	1	1											オムニバス方式・共同（一部）	

コース別 選択科目	授業 実践 力 開 発 コ ー ス	美術科教材開発研究「造形表現」	1前	2		○							兼2	オムニバス方式・共同 (一部)	
		美術科教材開発研究「美術鑑賞」	1後	2		○							兼3	オムニバス方式・共同 (一部)	
		音楽科教材開発研究「表現」	1前	2		○							兼2	オムニバス方式・共同 (一部)	
		音楽科教材開発研究「鑑賞」	1前	2		○							兼2	オムニバス方式・共同 (一部)	
		教育実践課題解決研究Ⅰ (授業実践)	1前	1		○		7	2					共同	
		教育実践課題解決研究Ⅱ (授業実践)	1後	1		○		7	2					共同	
		教育実践課題解決研究Ⅲ (授業実践)	2前	1		○		7	2					共同	
		教育実践課題解決研究Ⅳ (授業実践)	2後	1		○		7	2					共同	
	小計 (33科目)	—	0	62	0	—	9	3	0	0	0	兼45			
	ダイ バ ー シ テ ィ 教 育 力 開 発 コ ー ス	スペシャルニーズ教育の理論と実践	1前	2		○			2					共同	
		子どもの心の臨床心理学的理解と支援	1後	2		○		1	1					オムニバス方式	
		心理的アセスメントと子ども支援	1後	2		○		1	1	1				オムニバス方式・共同 (一部)	
		外国人児童生徒教育の理論と実践	1後	2		○							兼1	共同	
		特別支援教育の臨床的探究	1前	2		○			1				兼1	共同	
		幼年教育の理論と実践	1後	2		○		2	1					共同	
		教育・保育の方法と省察	1後	2		○		1					兼1	共同	
		特別支援教育授業研究	1・2前	2		○							兼1	【隔年】 集中	
		障害児の発達診断・発達相談演習	1・2前	2		○							兼1	【隔年】 集中	
		多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応	1・2後	2		○			1					【隔年】 集中	
		障害児の心理と学校教育	1・2後	2		○				1				【隔年】 集中	
障害児の心理と子ども支援		1・2後	2		○				1				【隔年】 集中		
特別支援教育の教育方法的探究		1・2前	2		○							兼1	【隔年】 集中		
特別支援教育の現代的実践と課題		1・2後	2		○							兼1	【隔年】 集中		
障害児の病理と教育支援		1・2前	2		○							兼1	【隔年】 集中		
障害児の病理と健康支援		1・2後	2		○							兼1	【隔年】 集中		
子どもの発達と支援		1前	2		○		2					兼1	オムニバス方式・共同 (一部)		
教育実践課題解決研究AⅠ (ダイバーシティ)	1前	1		○		3						AⅠ～Ⅳまたは BⅠ～Ⅳ 全て共同			
教育実践課題解決研究AⅡ (ダイバーシティ)	1後	1		○		3									
教育実践課題解決研究AⅢ (ダイバーシティ)	2前	1		○		3									
教育実践課題解決研究AⅣ (ダイバーシティ)	2後	1		○		3									
教育実践課題解決研究BⅠ (ダイバーシティ)	1前	1		○		1	2	1							
教育実践課題解決研究BⅡ (ダイバーシティ)	1後	1		○		1	2	1							
教育実践課題解決研究BⅢ (ダイバーシティ)	2前	1		○		1	2	1							
教育実践課題解決研究BⅣ (ダイバーシティ)	2後	1		○		1	2	1							
小計 (25科目)	—	0	42	0	—	5	2	1	0	0	兼5	—			
合計 (117科目)			—	18	181	0	—	18	9	1	0	0	兼54	—	
学位又は称号	教職修士 (専門職)			学位又は学科の分野			教員養成関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
【修了要件】 本専攻に2年以上在学し、所定の46単位以上を修得すること。								1学年の学期区分				2期			
【履修方法】 <全コース共通> ○共通科目18単位 (必修)								1学期の授業期間				15週			
<学校経営力開発コース> 〔実習科目〕 「経営課題解決基本実習Ⅰ・Ⅱ」「経営課題解決発展実習」「地域協働実習」「教育行政実習」の5科目を必修科目として履修し、修了要件の10単位とする。加えて選択科目として各コース共通の「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)を設け、修了要件を超えて履修可能な科目とする。 〔コース科目〕 「学校組織マネジメント研究」「学校経営と教育リーダーシップ」「教職員の職能開発システムに関する実践的研究」「カリキュラムマネジメントと校内研修」「教育政策・教育行政の理論と実践」「学校安全・学校危機管理に関する実践的研究」(各2単位)の6科目(計12単位)及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ(経営)」(計4単位)をコース必修科目とする。「学校と地域の連携協働に関する実践的研究」「教育法規の理論と実践」(各2単位)については、この2科目から1科目(2単位)を選択必修とする。以上のコース必修科目及びコース選択必修科目を合わせて計18単位以上を履修する。加えて、教育実践力開発コース、授業実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち、他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目(コース間連携科目)を修了要件を超えて履修可能な科目とする。 なお、以下の(コース間連携科目)は、他コースの学生も履修可能な科目である。								1時限の授業時間				90分			

<教育実践力開発コース>

[実習科目]

「実践課題解決基本実習Ⅰ・Ⅱ」「実践課題解決発展実習」「研修開発実習」の4科目(8単位)を必修科目として履修する。加えて、「教育委員会実習」(2単位)「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)の3科目から2単位以上を選択必修として履修し、計10単位以上を履修する。

[コース科目]

「教育方法の開発と実践研究」「メンタリングと校内研修」「学校教育のアクションリサーチ」「社会的・職業的自立を支援する進路指導とキャリア教育」(各2単位)の4科目(8単位)及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ(教育実践)」(計4単位)をコース必修科目とする。さらに、学校経営力開発コース、授業実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち、他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目(コース間連携科目)の中から、選択必修として6単位以上を履修し、コース必修科目と合わせて18単位以上を履修する。

なお、以下の(コース間連携科目)は、他コースの学生も履修可能な科目である。

<授業実践力開発コース>

[実習科目]

「実践入門実習」「授業実践基本実習Ⅰ～Ⅲ」「授業実践発展実習」の5科目(7単位)を必修科目として履修し、加えて選択科目として設定している「学校支援実習Ⅰ～Ⅵ」(各1単位)「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)の中から3単位以上を選択必修として履修し、計10単位以上を履修する。

[コース科目]

「教師のキャリア発達と教育実践」「プログラミング教育の実践と教材開発」の2科目(4単位)及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ(授業実践)」(計4単位)をコース必修科目とする。「初等言語教育の理論と実践」「言語教育実践と教材開発研究」「古典教育と教材開発研究」「英米文学と英語科教材開発への応用」「言語学理論と英語科教材開発への応用」「初等社会科教育の理論と実践」「社会科・地理歴史科教材開発研究」「社会科・公民科教材開発研究」「初等理科教育の理論と実践」「理科の発展的理解と指導法」「理科観察実験研究「生命・地球」」「理科観察実験研究「物質・エネルギー」」「算数・数学科教材開発研究「数と形」」「算数・数学科教材開発研究「開教」」「数学の歴史を活かした数学教育」「数学の実験を活かした数学教育」「初等体育科教育の理論と実践」「体力科学実践研究」「健康科学実践研究」「初等生活科・家庭科教育の理論と実践」「家庭科教育教材開発研究」「技術科教育教材開発研究」「初等芸術教育の理論と実践」「美術科教材開発研究「造形表現」」「美術科教材開発研究「美術鑑賞」」「音楽科教材開発研究「表現」」「音楽科教材開発研究「鑑賞」」(各2単位)計27科目(54単位)から5科目(10単位)以上を選択必修科目として履修する。以上のコース必修科目及びコース選択必修科目を合わせて計18単位以上を履修する。加えて、学校経営力開発コース、教育実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち、他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目(コース間連携科目)を修了要件を超えて履修可能な科目とする。

なお、以下の(コース間連携科目)は、他コースの学生も履修可能な科目である。

<ダイバーシティ教育力開発コース>

[実習科目]

「ダイバーシティ教育基本実習」「特別支援実習」「フィールドワーク実習」「心理アセスメント実習」「ダイバーシティ教育発展実習」の5科目(10単位)を必修科目として履修し、修了要件の10単位とする。加えて選択科目として「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)を設け、修了要件を超えて履修可能な科目とする。

[コース科目]

「スペシャルニーズ教育の理論と実践」「子どもの心の臨床心理学的理解と支援」「心理的アセスメントと子ども支援」の3科目(6単位)及び「教育実践課題解決研究AⅠ～Ⅳ(ダイバーシティ)」(計4単位:幼児教育を主体)又は「教育実践課題解決研究BⅠ～Ⅳ(ダイバーシティ)」(計4単位:特別支援教育を主体)のいずれかをコース必修科目とする。加えて、「外国人児童生徒教育の理論と実践」「特別支援教育の臨床的探究」「幼年教育の理論と実践」「教育・保育の方法と省察」「特別支援教育授業研究」「障害児の発達診断・発達相談演習」「多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応」「障害児の心理と学校教育」「障害児の心理と子ども支援」「特別支援教育の教育方法的探究」「特別支援教育の現代的実践と課題」「障害児の病理と教育支援」「障害児の病理と健康支援」「子どもの発達と支援」のコース科目計14科目(28単位)、及び学校経営力開発コース、教育実践力開発コース、授業実践力開発コースの各コース科目のうち他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目(コース間連携科目)の中から選択必修として8単位以上を履修し、コース必修科目と合わせて計18単位以上を履修する。

なお、以下の(コース間連携科目)は、他コースの学生も履修可能な科目である。

(コース間連携科目)

コース別選択科目-学校経営力開発コース:「学校と地域の連携協働に関する実践的研究」「教育法規の理論と実践」

コース別選択科目-教育実践力開発コース:「教育方法の開発と実践研究」「メンタリングと校内研修」

コース別選択科目-授業実践力開発コース:「初等言語教育の理論と実践」「言語教育実践と教材開発研究」「古典教育と教材開発研究」「英米文学と英語科教材開発への応用」「言語学理論と英語科教材開発への応用」「初等社会科教育の理論と実践」「社会科・地理歴史科教材開発研究」「社会科・公民科教材開発研究」「初等理科教育の理論と実践」「理科の発展的理解と指導法」「理科観察実験研究「生命・地球」」「理科観察実験研究「物質・エネルギー」」「算数・数学科教材開発研究「数と形」」「算数・数学科教材開発研究「開教」」「数学の歴史を活かした数学教育」「数学の実験を活かした数学教育」「初等体育科教育の理論と実践」「体力科学実践研究」「健康科学実践研究」「初等生活科・家庭科教育の理論と実践」「家庭科教育教材開発研究」「技術科教育教材開発研究」「初等芸術教育の理論と実践」「美術科教材開発研究「造形表現」」「美術科教材開発研究「美術鑑賞」」「音楽科教材開発研究「表現」」「音楽科教材開発研究「鑑賞」」

コース別選択科目-ダイバーシティ教育力開発コース:「スペシャルニーズ教育の理論と実践」「子どもの心の臨床心理学的理解と支援」「特別支援教育の臨床的探究」「幼年教育の理論と実践」「教育・保育の方法と省察」

(履修科目の登録の上限:1学期に履修登録することができる単位数の上限は25単位とする。この場合において、集中授業で行う講義等及び実習科目の単位は含まない。)

別記様式第2号 (その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学研究科 高度教職実践専攻(教職大学院))
 学校経営力開発コース、教育実践力開発コース

【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	施編教育課程の領域 に 関 及 す る 実 践 の 実 現	教育課程編成の理論と実践	1前	2				○		1	2					共同
		授業実践の探究と教育課程	1前	2				○			2					共同
	な 教 指 導 等 の 実 践 的 な 方 法 に 関 す る 領 域	確かな学力を伸ばす指導と評価	1後	2				○		1	2					共同
		メディア活用実践研究	1後	2				○		1	1					オムニバス・共同(一部)
		滋賀の教育課題と指導方法	1後	2				○		5	2					オムニバス
	生 徒 に 関 す る 指 導 及 び 教 育 相 談 に 関 す る 領 域	生徒指導の理論と実践	1前	2				○		1						兼1 オムニバス・共同(一部)
		教育相談の理論と実践	1後	2				○		1						兼1 オムニバス・共同(一部)
		インクルーシブ教育の理論と実践	1後	2				○			1					兼1 共同・オムニバス(一部)
	学 校 の 経 営 に 関 す る 領 域	学びの基盤となる学級経営の探究	1前	2				○			1					兼1 オムニバス
		学校経営の理論と実践	1後	2				○		2	1					共同
	関 与 す る 教 員 に 関 す る 領 域	現代社会の課題と教員役割	1前	2				○		1	1					共同・オムニバス(一部)
	小計(11科目)			—	22	0	0	—	—	8	5	0	0	0	兼3	—
実習科目	経営課題解決基本実習Ⅰ	1前		1				○	3	1					任意に組み合わせて10単位を必修 全て共同	
	経営課題解決基本実習Ⅱ	1後		3				○	3	1						
	実践課題解決基本実習Ⅰ	1前		1				○	6	4						
	実践課題解決基本実習Ⅱ	1後		3				○	6	4						
	実践力開発基本実習Ⅰ	1前		1				○	6	4						
	実践力開発基本実習Ⅱ	1後		3				○	6	4						
	経営課題解決発展実習	2通		2				○	2	1						
	実践課題解決発展実習	2通		2				○	6	4						
	実践力開発発展実習Ⅰ	2前		2				○	6	4						
	実践力開発発展実習Ⅱ	2後		2				○	6	4						
	特別支援実習	1通		2				○	2	2						
	研修開発実習Ⅰ	1前		2				○	8	5						
	研修開発実習Ⅱ	1後		2				○	8	5						
	地域協働実習Ⅰ	1前		2				○	2	1						
	地域協働実習Ⅱ	1後		2				○	2	1						
	学校支援実習Ⅰ	2前		3				○	1	3						
	学校支援実習Ⅱ	2後		3				○	1	3						
小計(17科目)			—	0	36	0	—	—	9	5	0	0	0	0	—	
コース別選択科目	学 校 の 経 営 力 開 発 コ ー ス	学校組織マネジメント研究	1前	2				○	2						共同	
		学校経営と教育リーダーシップⅠ	1前	2				○	2	1					共同	
		学校経営と教育リーダーシップⅡ	1前	2				○	2	1					共同	
		カリキュラムマネジメントと校内研修	1後	2				○	1	1					共同	
		教育法規の理論と実践	1前	2				○	2						共同	
		教員評価の理論と実践	1後	2				○		1					兼1 オムニバス・共同(一部)	
		学校安全・学校危機管理に関する実践的研究	1前	2				○	2	1					共同	
		防災教育・防災管理と組織活動	1後	2				○	2	1					共同	
		国内外の教育施策と教育動向	1後	2				○	2						兼1 オムニバス	
		教育実践課題解決研究Ⅰ(経営)	1前	1				○	3	1					共同	
		教育実践課題解決研究Ⅱ(経営)	1後	1				○	3	1					共同	
		教育実践課題解決研究Ⅲ(経営)	2前	1				○	3	1					共同	
		教育実践課題解決研究Ⅳ(経営)	2後	1				○	3	1					共同	
小計(13科目)			—	0	22	0	—	—	4	1	0	0	0	兼1	—	
教育実践力開発コース	教 育 実 践 力 開 発 コ ー ス	カリキュラム開発と授業実践の最先端	1前	2				○	1	2					オムニバス・共同(一部)	
		教育方法の開発と実践研究	1前	2				○		4					共同	
		特色ある教育実践と教材開発	1後	2				○	1	1					オムニバス・共同(一部)	
		子どもの発育発達とその支援	1前	2				○	1	1					兼1 オムニバス・共同(一部)	
		幼年教育の理論と実践	1後	2				○	1	1					オムニバス	
		特別支援教育の臨床的探究	1前	2				○		1					兼1 学卒者必修(共同)	

コース別選択科目	ス 教育実践力開発コース	メンタリングの理論と実践	1前	2	○	1	2					共同・オムニバス (一部)		
		校内研究・校内研修の理論と実践	1・2後	2	○	1	2					共同・オムニバス (一部)		
		教育実践課題解決研究Ⅰ(実践)	1前	1	○	6	4					共同		
		教育実践課題解決研究Ⅱ(実践)	1後	1	○	6	4					共同		
		教育実践課題解決研究Ⅲ(実践)	2前	1	○	6	4					共同		
		教育実践課題解決研究Ⅳ(実践)	2後	1	○	6	4					共同		
		小計(12科目)	—	0	20	0	—	6	4	0	0	0	兼2	—
合計(53科目)			—	22	78	0	—	9	5	0	0	0	兼6	—
学位又は称号	教職修士(専門職)			学位又は学科の分野			教員養成関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>【修了要件】 本専攻に2年以上在学し、共通科目22単位、実習科目10単位、コース別選択科目16単位を合わせ、48単位以上を修得すること。</p> <p>【履修方法】 ＜全コース共通＞ ○共通科目11科目22単位(必修科目)</p> <p>＜学校経営力開発コース＞ ○実習科目(10単位) 学校経営力開発コースの実習科目「経営課題解決基本実習Ⅰ・Ⅱ」「経営課題解決発展実習」「地域協働実習Ⅰ」の4科目(8単位)を必修科目として履修する。加えて、「研修開発実習Ⅰ・Ⅱ」「地域協働実習Ⅱ」(各2単位)の3科目から2単位以上を選択必修として、計10単位以上を履修する。 ○コース別選択科目(16単位) 学校経営力開発コース「学校組織マネジメント研究」「カリキュラムマネジメントと校内研修」「学校安全・学校危機管理に関する実践的研究」(各2単位)の3科目(計6単位)及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ(経営)」(計4単位)をコースの必修とし、計10単位を履修する。及び、「学校経営と教育リーダーシップⅠ・Ⅱ」「教育法規の理論と実践」「教員評価の理論と実践」「防災教育・防災管理と組織活動」「国内外の教育施策と教育動向」(各2単位)6科目から6単位以上を選択必修とし、計16単位以上を履修する。</p> <p>＜教育実践力開発コース＞ ○実習科目(10単位)(現職教員) 教育実践力開発コースの実習科目「実践課題解決基本実習Ⅰ・Ⅱ」「実践課題解決発展実習」「研修開発実習Ⅰ」の4科目(8単位)を必修科目として履修する。加えて、「特別支援実習」「研修開発実習Ⅱ」(各2単位)の2科目から2単位以上を選択必修として、計10単位以上を履修する。 ○実習科目(10単位)(学部新卒) 教育実践力開発コースの実習科目「実践力開発基本実習Ⅰ・Ⅱ」「実践力開発発展実習Ⅰ」「特別支援実習」の4科目(8単位)を必修科目として履修する。加えて、「実践力開発発展実習Ⅱ」「研修開発実習Ⅱ」(各2単位)の2科目から2単位以上を選択必修として、計10単位以上を履修する。 ○コース別選択科目(16単位) 教育実践力開発コース「カリキュラム開発と授業実践の最先端」「子どもの発育発達とその支援」「特別支援教育の臨床的探究」「校内研究・校内研修の理論と実践」(各2単位)の4科目(8単位)及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ(実践)」(計4単位)をコースの必修とし、計12単位を履修する。加えて、「教育方法の開発と実践研究」「特色ある教育実践と教材開発」「幼年教育の理論と実践」「メンタリングの理論と実践」(各2単位)4科目から4単位以上を選択必修とし、計16単位以上を履修する。</p> <p>(履修科目の登録の上限：1学期に履修登録することができる単位数の上限は25単位とする。この場合において、集中授業で行う講義等及び実習科目の単位は含まない。)</p>							1学年の学期区分		2期					
							1学期の授業期間		15週					
							1時限の授業時間		90分					

別紙様式第2号(その3の1)

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科 高度教職実践専攻 共通科目)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	教育課程の意義や歴史を学び、今日求められているコンピテンシーベースの教育課程編成の在り方を考える。教育課程のマネジメント論、教育目標・評価論などの理論や諸外国の事例を学び、学校課題を解決する特色ある教育課程開発について考える。	共同
	教育課程の編成及び実施に関する領域	授業実践は、子どもの学習活動と教授行為の複合的で重層的な営みである。教師による粘り強い実践と省察の循環によって実践家として成長するとともに、これらの営みが教育課程を毎日毎時間つくりつづけているといえる。本科目では、授業実践の諸相を省察することによって、教育課程が一つひとつの授業によって創られていることをミクロな視点から捉え直していく。まずビデオで授業実践の事例検討を積み重ねることで、授業実践の多様な側面と多義的な過程とを理解することをめざす。さらに、それらを通して、授業実践に求められる条件と教師に求められる実践力と見識(レポトリー、思想・バックボーン、居方・関わり方など)を考察し、各自が実践研究の課題をつかみ自己形成の糧にすることをめざしたい。	共同
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	21世紀に求められる学力についての理論と調査について学び、学力の社会的要因、学校の組織的要因、授業の方法的要因について理解する。また、今日求められる教育評価論について学び、滋賀県の学力向上プランを検証し、学力向上に関わる授業研究・教員研修・スクールリーダーの在り方を考える。	共同
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	本講義では、メディアの種類・特徴・機能及び現状について、理論的及び実践的側面から探究し、メディア活用の実践的な方法・技術を習得する。まず、メディアについて、メディア情報学をベースに、メディアの種類・特徴・機能及び現状について考察を行う。 次に、授業におけるメディア活用(教育メディアとしてのICT活用)について考究する。メディア活用の事例研究として、各教科に共通する課題を対象に、問題解決の科学として、効果的な学習方法について、具体的な検討を行う。 オムニバス方式(4回)・共同(4回)／全8回 (22 畑稔彦・65 岩井憲一／3回) (共同) メディアとICTに関する諸科学の概要、メディアの種類(教育メディアとしての考究)、メディアの現状(教育におけるメディア活用)などについて考究する。 (22 畑稔彦／2回) (オムニバス方式) 実践研究Ⅰ：教科指導の中でのメディア活用の計画と実施、実践研究Ⅱ：教科指導の中でのメディア活用の評価について考究する。 (65 岩井憲一／2回) (オムニバス方式) メディア活用Ⅰ(問題解決の視点による活用)、メディア活用Ⅱ(新しい教育方法による活用)について考究する。 (22 畑稔彦・65 岩井憲一／1回) (共同) メディア活用実践のまとめを行う。	オムニバス方式・共同(一部)

共通科目	教科等の実践的な指導方法に関する領域	<p>滋賀県が抱える課題のいくつかをテーマにし、現地に基づいた研究と各地の事例分析等を積み重ねることで、滋賀県の課題解決に向けて恒常的に前進する姿勢を育てることを目的とする。滋賀県では、「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」という独自の教育基本目標の達成のために、授業改善、豊かな心の育成、体力向上と健康の増進、食育の推進、環境教育の推進、特別支援教育や外国人児童生徒等への学習支援などの課題とその施策が設けられている。この科目では、そうした課題のいくつかについて、多様な観点からの理解を目指す。</p> <p>オムニバス方式／全8回 (20 田村靖二／2回) (オムニバス方式) 初回の1回では滋賀県の教育の現状と現代的課題について概説し、最終の8回目にはそうした諸課題の解決に向けて恒常的に前進するための姿勢についての議論を喚起する。 (21 今井弘樹／1回) (オムニバス方式) 滋賀県におけるキャリア教育の課題について、講義と討論を通じて学ぶ。 学校現場における危機管理の重要性と、滋賀県におけるその課題について、講義と討論を通じて学ぶ。 (11 藤岡達也／1回) (オムニバス方式) 滋賀県の環境教育など持続可能な社会の構築に向けた学校全体での取り組み事例や授業実践について具体的に紹介するとともに、それらの取り組みが地域や家庭と連携して構築される方策について、討論を通じて学ぶ。 (6 久保加織／1回) (オムニバス方式) 滋賀県における食育教材の開発と展開に向けた学校全体での取り組み事例や授業実践について具体的に紹介するとともに、それらの取り組みが地域や家庭と連携して構築される方策について、討論を通じて学ぶ。 (10 林睦／1回) (オムニバス方式) 滋賀県における芸術文化施設と学校が連携した取り組み事例や授業実践について具体的に紹介するとともに、質の高い文化芸術に触れることにより豊かな心や感受性を育むための方策について、討論を通じて学ぶ (2 奥田援史／2回) (オムニバス方式) 滋賀県下の学校において体力向上と健康の増進がいかに進められているのかを紹介し、あわせてその課題について、講義と討論を通じて学ぶ。</p>	オムニバス方式
	生徒指導及び教育相談に関する領域	<p>生徒指導・教育相談の理論と実践</p> <p>学校現場における子どもの心理的・発達的問題の基礎理論を考察し、それに基づく対処の方法について、理論的・実践的に検討し理解を深めることを目的とする。一人ひとりの子どもの個性的な人格発達に寄与する生徒指導、教育相談の基本的視点について理解を深め、子どもの内面性の理解に基づく指導や教育相談のあり方、子どもとの関わり方を考察していく。また、実際的な事例を取り上げて、ロールプレイなどを通したワークショップ形式で生徒指導、教育相談上の問題や対処法、課題などを参加者とともに実践的に検討する。生徒指導、教育相談上の諸問題に関わる見識と意欲を高めることを目指す。</p> <p>ダイバーシティ教育の理論と実践</p> <p>ダイバーシティ（多様性）の教育について講じるにあたり、その前提となる個性の尊重が教育の最終的な目的である道徳性の形成をどう展望できるのか、またそれを誘導する社会化の機能はどう可能となるのか、つまり、ダイバーシティ（多様性）の教育における個別性と一般性の構造的な問題にその理論的な端緒を設定する。これに続いて、すべての子どもの学習権と発達権を保障するインクルーシブな教育の理念をはじめとして、多様性を尊重する学校教育のあり方や国際的な動向について概説する。また、国内外の教育実践の事例を紹介し、今日の学校教育現場で学ぶ子どもたちの多様性・多様な教育的ニーズの現状や課題について、障害や虐待、貧困、種々のマイノリティなど幅広い視野で考え、省察を深めることを目的とする。とくに、滋賀県の今日的な課題の1つとなっている、外国にルーツのある児童生徒への対応についても検討する。</p>	共同

別紙様式第2号(その3の1)

共通科目	学級経営及び学校経営に関する領域	学級の基盤となる学級経営の探究	学校教育の学びの基盤となる学級集団について、教育心理学・発達心理学・社会心理学・学校心理学の理論に基づいた理解を深めること、その理論を実践に展開する方法を学ぶことを目的とする。学級集団における学習や対人関係の諸問題について解説し、予防・解決を図る際の実践上の工夫について議論する。	共同
	学級経営及び学校経営に関する領域	学校経営の理論と実践	本講義は、自律的・協働的な学校経営に関する専門的知識について整理し理解を深め、事例研究をもとに学校が抱えている諸課題について解決するための戦略的方策を探究するものである。内容は事例に基づいた教育リーダーシップ研究、教育政策と法・教育行政研究、学校組織研究、学校評価研究、地域連携研究とし自律的・協働的な学校経営に関する基礎的な知見を深める。構成は①理論（専門知識）の習得、②技法（専門知識を応用するための技術や手法）の習得、③実践化（実践事例の検証）をねらいとして講義と演習を繰り返し基礎的な能力の定着を図るものである。	共同
	学校教育と教員の在り方に関する領域	現代社会の課題と教員役割	国際化や高度情報通信化が進む現代社会において、グローバル人材だけでなく地域活性化のためのローカル人材の育成も不可欠となっている。教員の役割にも「不易と流行」がある。複雑な時代や地域の様々なニーズに応えるための、これからの教員の役割を論考する。同時に先行き不透明な時代、インストラクター的な要素だけでなく、地域の人、モノ、コトなどを教育活動と連動することができるコーディネーター的な要素も不可欠であることを紹介する。 オムニバス方式（11回）・共同（4回）／全15回 （11 藤岡達也／9回）（オムニバス方式） 持続可能な社会が望まれる背景、グローバル人材育成のために進められているESD(持続発展教育)を中心に教員を取り巻く課題と教職に就いて概説する （21 今井弘樹／2回）（オムニバス方式） 学力向上等滋賀県が直面する課題について論考する （11 藤岡達也・21 今井弘樹／4回）（共同） 具体的な解決策に向けての今後の期待される教員及び教育活動について	オムニバス方式・共同（一部）
		学校教育におけるデータサイエンス	経験や直感によらず、エビデンスに基づいて科学的・論理的な判断ができる知識・技能を身につけ、これからの時代のあるべき学校教員の姿として考えてもらう。また来たるべきSociety 5.0の時代を見据えて、情報（ビッグ・データ、IoT）やAIの活用による学習支援のあり方やその課題を考えられるようになることを目指す。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(教育学研究科 高度教職実践専攻 実習科目)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
実習科目	学校経営力開発コース	経営課題解決基本実習Ⅰ	共通科目や選択科目で習得した知識と技術を活用して連携協力校（勤務校）において学校経営に参画し、連携協力校（勤務校）が直面する学校教育改革に必要な学校経営のための実践課題を発見し、「教育実践課題解決研究Ⅰ」で総括する。	共同
		経営課題解決基本実習Ⅱ	「経営課題解決基本実習Ⅰ」を踏まえて、教育改革プランを策定し、それに基づき連携協力校（勤務校）の中で事例的に探求する。実践課題の「発見・探求・解決」のプロセスを「教育実践課題解決研究Ⅱ」で総括する。	共同
		経営課題解決発展実習	1年次の「経営課題解決基本実習」と「地域協働実習」を踏まえて、発展的な内容の「実践課題研究テーマ」を設定する。連携協力校（勤務校）での教育活動を通して、自己の研究課題を事例的に探求・検証し、そのプロセスと成果を「教育実践課題解決研究Ⅲ・Ⅳ」で総括する。	共同
		地域協働実習	共通科目やコース別選択科目で習得した知識と技術を活用し、教育委員会や公民館または博物館等の社会教育施設などの協力を得て、学校が地域の教育関連施設と連携・協働して取り組むことで成果が期待できる教育活動を様々な事例から学ぶ。同時に自分の学校や地域での具体的な実践方法等を探究する。それらの取組のプロセスと成果を「教育実践課題解決研究Ⅰ」で総括する。	共同
		教育行政実習	講義で習得した知識と技術を利用し、教育行政・政策に関する具体的な場面での実践を観察し、政策立案する実践力を習得する。 (1)市町教育委員会の指導主事等の職務観察・部分体験 自治体レベルでの施策立案・実施能力の育成、学校の経営支援能力の育成 (2)滋賀県総合教育センターの指導主事等の職務観察・部分体験・教職員研修の企画能力の育成	共同
	教育実践力開発コース	実践課題解決基本実習Ⅰ	共通科目や選択科目で習得した知識と技術を活用して連携協力校（勤務校）で教育課程全般に亘って支援する実習を行い、教育課程・学習指導・学級経営・教育相談などの教育実践について新たな問題意識をもち、実践課題を再発見し、「教育実践課題解決研究Ⅰ」で総括する。	共同
		実践課題解決基本実習Ⅱ	「教育実践課題解決研究Ⅰ」を踏まえて、自身の実践的課題を設定する。その課題に基づいて連携協力校（勤務校）において長期間教育活動を参与観察し、自身の課題を多面的・実践的に探究する。課題の「発見・探求」プロセスを「教育実践課題解決研究Ⅱ」で総括する。	共同
		実践課題解決発展実習	連携協力校（勤務校）において、授業を開発し学校課題を解決しようとしている教員の諸活動を対象にして、1年次の「実践課題解決基本実習」と「研修開発実習」を踏まえて発展的な内容の「実践課題研究テーマ」を設定する。また、自己の研究課題を事例的に探究・評価し、その成果と課題を「教育実践課題解決研究Ⅲ」で総括する。 そのうえで、同僚性を高める内容の「実践課題研究テーマ」を設定し、教育実践力開発コースの学部卒生や教育実習生、初任教師（経験年数1～5年目）のメンターとして活動する。その探求プロセスと成果を「教育実践課題解決研究Ⅳ」で総括し、研修意欲を高めるカンファレンス等を行えるメンター（教員養成指導者）としての資質能力を形成する。	共同
		研修開発実習	滋賀県総合教育センターの研修に参加し、その指導補助員として活動する。また、研修の直前準備や直後の振り返りの活動にも参画する。これらの経験をもとにして、連携協力校（勤務校）の校内研究や校内研修の企画・運営に携わり、その成果と課題を「教育実践課題解決研究Ⅰ」で総括する。	共同
		教育委員会実習	県および市町教育委員会等の教育行政機関において、学校訪問での指導助言の参観、教育委員会主催の研修会や協議会の運営補助等を経験することで、教育活動を多角的な視点から省察する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科 高度教職実践専攻 実習科目)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目	実践入門実習	附属幼稚園・小学校・中学校において、6月の教職週間中に入門的な実習を実施する。保育・授業を観る視点、保育・授業の記録のとり方などの授業観察の方法について学ぶとともに、保育・授業の観察方法にしたがって実際に授業観察する。その上で、保育・授業の分析方法についても学ぶ。	共同
	授業実践基本実習Ⅰ	幼稚園・小学校・中学校の複数の校種の組み合わせを選択し、各校種での保育・授業研究のあり方を附属学校の校内研究会や研究協議会に準備の段階から参加することによって目的意識をもって主体的に学ぶとともに、校種間連携のあり方についても学ぶ。校種の組み合わせおよび時間数については各自の専門教科や研究テーマに応じて、全体で60時間になるようにする。 ・附属幼稚園公開研究会への参加（8時間） ＋その準備・記録・分析等及び校内研究会への参加 ・附属小学校教育研究協議会への参加（8時間） ＋その準備・記録・分析等及び校内研究会への参加 ・附属中学校教育研究協議会への参加（8時間） ＋その準備・記録・分析等及び校内研究会への参加	共同
	授業実践基本実習Ⅱ	滋賀県教育委員会や滋賀県総合教育センターの実施事業、あるいは市町村教育委員会や市町村教育研究所等の実施事業において、各事業に参加することを通して、実践研究の進め方について学ぶ。その上で、それらの実習経験をもとに「教育実践課題解決研究Ⅱ」と連動させながら各自の研究を深める。	共同
	授業実践基本実習Ⅲ	教育実践力開発コース現職教員院生の所属学校、大学院修了生（OB）が勤務する学校、研究協力校、附属学校などで専門とする校種または教科が合致する教員と院生、院生同士がペアになり実習を実施する。実習で学んだことをもとにして「教育実践課題解決研究Ⅲ」での課題解決に結び付ける。	共同
	授業実践発展実習	公立学校あるいは附属学校での「授業実践基本実習Ⅲ」及びそれに伴う「教育実践課題解決研究Ⅲ」での学びを発展・深化させながら、自らの研究テーマに沿った目的が明確な実習を行い、「教育実践課題解決研究Ⅳ」の最終レポート作成並びに発表等に結び付ける。	共同
	学校支援実習Ⅰ	教職大学院1年目5, 6, 7月に、公立学校及び附属学校での学校行事や他の教育活動等への参加を通して、児童生徒の学習支援や教員の指導補助などを体験しながら、学校の一年間の動きの一端を体験したり、子どもの個別の教育ニーズに対応したりしながら自己のスキルアップに繋げる。	共同
	学校支援実習Ⅱ	教職大学院1年目9, 10, 11月に、公立学校及び附属学校での学校行事や他の教育活動等への参加を通して、児童生徒の学習支援や教員の指導補助などを体験しながら、学校の一年間の動きの一端を体験したり、子どもの個別の教育ニーズに対応したりしながら自己のスキルアップに繋げる。	共同
	学校支援実習Ⅲ	教職大学院1年目12, 1, 2月に、公立学校及び附属学校での学校行事や他の教育活動等への参加を通して、児童生徒の学習支援や教員の指導補助などを体験しながら、学校の一年間の動きの一端を体験したり、子どもの個別の教育ニーズに対応したりしながら自己のスキルアップに繋げる。	共同
	学校支援実習Ⅳ	教職大学院2年目5, 6, 7月に、公立学校及び附属学校での学校行事や他の教育活動等への参加を通して、児童生徒の学習支援や教員の指導補助などを体験しながら、学校の一年間の動きの一端を体験したり、子どもの個別の教育ニーズに対応したりしながら自己のスキルアップに繋げる。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(教育学研究科 高度教職実践専攻 実習科目)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
実習科目	授業実践力開発コース	学校支援実習Ⅴ	教職大学院2年目9, 10, 11月に、公立学校及び附属学校での学校行事や他の教育活動等への参加を通して、児童生徒の学習支援や教員の指導補助などを体験しながら、学校の一年間の動きの一端を体験したり、子どもの個別の教育ニーズに対応したりしながら自己のスキルアップに繋げる。	共同
		学校支援実習Ⅵ	教職大学院2年目12, 1, 2月に、公立学校及び附属学校での学校行事や他の教育活動等への参加を通して、児童生徒の学習支援や教員の指導補助などを体験しながら、学校の一年間の動きの一端を体験したり、子どもの個別の教育ニーズに対応したりしながら自己のスキルアップに繋げる。	共同
	ダイバーシティ教育開発コース	ダイバーシティ教育基本実習	幼稚園および小学校（通常学級、特別支援学級等）にて、特別な支援を要する子どもの参与観察を通して、子どもの行動や特性を理解し、教師の具体的な支援について学ぶ。	共同
		特別支援実習	特別支援学校において、授業参観や参与観察、授業研究会に参加することを通して、障害のある子どもの発達段階や特性に応じた支援のあり方を学ぶ。	共同
		フィールドワーク実習	学校外の子どもの教育や生活に関連する施設（外国籍児童生徒日本語指導教室、少年鑑別所、障害者支援施設、発達障害者就労支援施設、教育相談センター、適応指導教室等）を訪れ、学校との連携について学ぶ。施設見学、講話、参与観察からなるフィールドワークと、理論的背景を学ぶアフターレクチャーより構成し、様々なニーズを抱える子どもたちに対する地域教育支援連携体制について、具体的な見通しを持つ。	共同
		心理アセスメント実習	発達の課題のある子どもたちに対する心理アセスメントについて、実践的に学ぶ。 ①児童・生徒に対する発達検査場面に同席してカンファレンスに参加し、「個別の指導計画」を教員と共に作成し、それに基づく学習支援を行う。 ②附属学校園で実施されている発達障害児学習・発達支援室（サポートルーム）の活動（児童生徒のニーズの把握と支援、学内における共通理解の推進、保護者や関係機関との連携等）に同席し、通常の学級における特別な支援を要する子どもへの具体的な対応や連携のあり方について学ぶ。	共同
		ダイバーシティ教育発展実習	1年次の「ダイバーシティ教育基本実習」と「フィールドワーク実習」を踏まえて、本人の問題意識に応じた発展的な内容の「実践課題研究テーマ」を設定する。各自の問題意識に応じたフィールドにおいて、教育的で実践的な支援活動を通して、自己の研究課題を事例的に探求・検証する。さらに事例的に探求したプロセスと成果について、科学的、普遍的な視点で検証する。そのうえで、学校内外のリソースと連携したダイバーシティ教育の望ましい在り方について考察を深め、これまでの学びを総括する。	共同
	各コース共通	海外連携校実習Ⅰ	本実習の目的は、①タイの教育（制度・現状・改革動向など）について理解し、グローバルな視野をもち、これからのアジアの教育について深く考えること、②海外での生活や人々との交流を通して、その国の文化や社会、人々の生き方を理解するとともに自国のそれらについて再考し、新たな視点や考えをもつこと、そして、③異国の地で、異なる文化をもつ人々と積極的にコミュニケーションを図る。これらの目的のため、①タイの協定大学における大学教員の演習および大学院生との交流、②現地の学校（協定大学の附属校、協定大学の卒業生が教師として勤務している学校、山岳少数民族の学校、保護を必要とする子どものための学校、日本人学校など）を訪問し、教員との意見交換、子どもたちとの交流活動を行う。	【隔年】 共同集中
		海外連携校実習Ⅱ	本実習の目的は、①台湾の教育（制度・現状・改革動向など）について理解し、グローバルな視野をもち、これからのアジアの教育について深く考えること、②海外での生活や人々との交流を通して、その国の文化や社会、人々の生き方を理解するとともに自国のそれらについて再考し、新たな視点や考えをもつこと、そして、③異国の地で、異なる文化をもつ人々と積極的にコミュニケーションを図る。これらの目的のため、①台湾の協定大学における、大学教員の演習および大学院生との交流、②現地の学校（協定大学の附属校、協定大学の卒業生が教師として勤務している学校など）を訪問し、教員との意見交換、子どもたちとの交流活動を行う。	【隔年】 共同集中

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科 高度教職実践専攻 学校経営力開発コース)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース別選択科目	学校組織マネジメント研究	学校経営の活性化に欠かせないのが、適切な学校組織の在り方である。学校教育改革に必要な学校全体の組織マネジメントは従来の校務分掌や学年団の在り方の検証にとどまらず、学校内外の組織活動への柔軟な取組が求められる。また、学校の特色に合わせるだけでなく、時代や地域のニーズに対応する組織運営が大切である。例えば、近年では、滋賀県に限らず、全国的に学校を構成する教員が20代、50代に集中する教員年齢のアンバランスが見られる。このような中でも教職員のエンパワーメントにはどのような学校組織が望まれ、円滑な運営と同時に、重要な評価についても検討されねばならない。本講義では、学校組織マネジメントの基礎から、時代や地域に応じた教育改革期における学校組織マネジメントについて、実例から分析・検証する。	共同
	学校経営と教育リーダーシップ	学校経営に責任を負う校長には課題を踏まえた学校づくりの明確なビジョンと戦略を策定し推進する教育リーダーシップの発揮が求められる。また校長を支え組織の要として期待されるスクールミドルの育成が重要となる。授業では現代のリーダーシップ論を概説するとともに、近年注目されているミドルリーダーシップ論にも焦点づけ、自律的・協働的 school 経営における校長やミドルリーダーの果たす役割、その本質や機能、そして学校文化を形成する上で必要となる文化的リーダーシップと技術的リーダーシップが調和的・効果的に発揮され、教育成果に結実するスクールリーダーシップの戦略化について探究する。	共同
	教職員の職能開発システムに関する実践的研究	現在、教員の急激な世代交代が進行する中で、各学校においては、児童生徒に多面的な資質能力を保障できるよう、個々の教員の力量及び教職員集団としての組織的能力を向上させる育成の取り組みが強く求められている。本科目では、教員のキャリア発達、学校組織における教員の職能開発の方法に関する基礎理論を学習するとともに、OJTの諸手法や教員評価をはじめとする育成機会の企画・立案・評価について実践的に体得し、校内・外を結び体系性ある育成システムを設計・確立できる視野・力量の形成を目指す。	共同
	カリキュラムマネジメントと校内研修	現在の学校の状況からカリキュラムマネジメントの必要性を理解する。カリキュラムマネジメントの基本概念と方法を学び、管理職やミドルリーダーの役割を考える。学校課題を解決するカリキュラムマネジメントを進める校内研修の在り方を提案する。	共同
	教育政策・教育行政の理論と実践	学校の外的条件の中でも重要なものである、教育行政の原理・仕組みとその運用、さらに自治体レベルでの教育施策のプロセス(企画・立案や実施・評価)について、理論枠組みと実践的方法論(事例研究)の双方を学び、地域の中核的な学校管理職として施策対応・活用の実践力(あるいは教育行政専門職としての施策立案・評価能力)を高める。	共同
	学校安全・学校危機管理に関する実践的研究	学校安全は、生活安全、交通安全、災害安全(防災と同義)から構成される。近年、学校をめぐる様々な事件・事故、災害が発生し、安全配慮義務の観点から、校長をはじめとした学校に責任が問われ、学校危機管理の構築が不可欠となっている。一方で、学校には児童生徒自ら危険を予測・判断、行動が可能な安全教育、人的・物的な安全管理システム、地域とも連動した組織活動が求められている。本科目では、学校安全・危機管理の知識・技能の習得とともに、近年の実例から対応を協議し、勤務校の現状と課題を踏まえ、改善策を明確にする。	共同

別紙様式第2号(その3の1)

コース別選択科目	学校経営力開発コース	学校と地域の連携協働に関する実践的研究	これからの学校管理職をはじめとするスクールリーダーには、保護者や地域住民に開かれた学校経営様式の構築、そして地域の特性・資源を活かした特色ある学校づくり（社会に開かれた教育課程実現）の力量が必要となる。また、学校づくりに家庭・地域の教育力・資源を活用するだけでなく、学校を地域づくりの核として機能させる視野・力量も必要となってきている。そのような「地域とともにある学校づくり」を進めていく力量を身につけることを本授業の目標とする。	共同
		教育法規の理論と実践	学校運営はじめ学校における教育活動は、全て法規や条例をその基盤としている。昨今では、学校教育において様々な事件が発生したり、学校管理下の責任が問われたりしている。当然ながら、現在においても解釈が分かれていたり、訴訟によってはじめて責任が明確になったりすることもある。しかし、学校管理職としては教育法規についても、基礎・基本を知っておく必要があり、特にコンプライアンスについては、重要な課題となっている。本講義では、近年の学校での事件・事故災害等をめぐっての訴訟事例を取り上げ、教育法規の解釈の理解を進め、学校における教育活動の健全な在り方を探ることをねらいとする。	共同
		教育実践課題解決研究Ⅰ（経営）	これまでの講義、演習、学校実習、フィールドワークを踏まえ、学校経営改善プランもしくは教育行政改善プランを作成する。学校経営改善プランでは、学校における現代的課題を解決し特色ある学校づくりのための経営方針、教育課程、学校組織などを考案する。教育行政改善プランでは、特色ある教育施策、教育課程行政、教育人事行政を考案し、滋賀の教育を活性化するプランを提案する。	共同
		教育実践課題解決研究Ⅱ（経営）	教育実践課題解決研究Ⅰの講義、演習、学校実習、フィールドワークを踏まえ、学校経営改善プランもしくは教育行政改善プランを作成する。学校経営改善プランでは、学校における現代的課題を解決し特色ある学校づくりのための経営方針、教育課程、学校組織などを考案する。教育行政改善プランでは、特色ある教育施策、教育課程行政、教育人事行政を考案し、滋賀の教育を活性化するプランを提案する。	共同
		教育実践課題解決研究Ⅲ（経営）	教育実践課題解決研究Ⅰ、Ⅱの講義、演習、学校実習、フィールドワークを踏まえて作成した学校経営改善プランもしくは教育行政改善プランを実践的、実証的に検証し、よりよいプランに改善する。そのプロセスを通して、学校経営力開発コースにおける2年間の学びを総括し、プランを完成させる。このプランは、大学院の教員及び大学院生だけでなく、滋賀県教育委員会関係者、学校関係者に向けてプレゼンテーションを行う。	共同
		教育実践課題解決研究Ⅳ（経営）	これまでの講義、演習、学校実習、フィールドワークを踏まえて作成した学校経営改善プランもしくは教育行政改善プランを実践的、実証的に検証し、よりよいプランに改善する。そのプロセスを通して、学校経営力開発コースにおける2年間の学びを総括し、プランを完成させる。このプランは、大学院の教員及び大学院生だけでなく、滋賀県教育委員会関係者、学校関係者に向けてプレゼンテーションを行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科 高度教職実践専攻 教育実践力開発コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース別選択科目	教育方法の開発と実践研究	本授業では、共通科目の「授業実践の探究と教育課程」「ダイバーシティ教育の理論と実践」等において学んできたことを踏まえて、文化領域を超える主題追究型学習や今日的な課題に応える授業づくりの課題や方法についての理解を深め、各参加者による開発構想と実践研究を触発することを目指す。まず主題追究型学習の事例検討を通して題材に求められる条件や教師に求められる実践力と見識についての理解を深め、参加者各自による主題追究型学習事例開発の意欲を高める。さらに、算数・数学科、国語科、特別支援に関する今日的な課題に応える教育方法を検討し、実践研究（アクションリサーチ）していくための前段階をつくる。全体を通して各自が実践研究の課題をつかみ、今後の自己形成・自己研鑽の糧となることを期待している。	共同集中
	メンタリングと校内研修	本授業では、人材育成手法の一つであるメンタリング（mentoring）の目的と意義について理解するとともに、附属学校における教育実習に参加してメンタリングの実際的な内容と方法について学ぶ。また、受講生が経験・観察してきた校内研修の事例を交流し合い、メンタリングの機能を活かした校内研修のあり方について考える。さらに、研修の点検・評価を含めた研修マネジメントの方法や、研修リーダーとして助言するコンサルテーションの視点について理解する。なお、学部新卒学生においては、1年次の実習科目で校内研修システムを視察することを先行課題として位置づける。	共同
	学校教育のアクションリサーチ	学校教育のアクションリサーチの方法と事例の研究を行う。アクションリサーチと校内研究、エスノグラフィー、ピア・メンタリングなどとの関係についても整理する。事例研究では、教科等の授業研究、学級活動や特別活動、外国にルーツをもつ児童生徒の教育問題、持続可能な社会の実現をめざした教育、主権者教育などの分野から、受講生のフィールドにおいて解決すべき教育問題に焦点化したアクションリサーチを取り上げる。	共同
	社会的・職業的自立を支援する進路指導とキャリア教育	日本では2004年から始まったキャリア教育であるが、キャリアという言葉の多義性や進路指導との区別、教科の授業における機能論的な展開のあり方など、課題は多い。また生徒指導の目標とも相容れる部分があるなど、学校教育においては単に進学先や就職先の選択・斡旋を超えた、有意義な教育活動である。この講義ではその理念や出自を理解してもらい、初等・中等教育段階における実践のあり方の検討を行う。	共同
	教育実践課題解決研究Ⅰ（教育実践）	共通科目、コース別選択科目での学びを深め、実習科目での学びと関連づけながら、教育実践課題解決での実践研究を進める。その中で、それぞれの教科や領域の研究内容を理解しながら、研究方法についても学ぶ。	共同
	教育実践課題解決研究Ⅱ（教育実践）	教育実践課題解決での学びを実習科目での学びと関連づけながら、各教科教育の理論と実践の往還のあり方について学ぶ。その上で、各自の実践研究テーマを設定し、それぞれの課題解決のプロセスやその結果を、PDCAサイクルに基づいて省察する。	共同
	教育実践課題解決研究Ⅲ（教育実践）	各自の研究課題解決のプロセスである「設定－探究－評価－見直し」を実施しながら、自らの課題解決を多角的に検討する。そして、各自の課題解決の内容や方法を整理しながら報告書にまとめるための準備をする。	共同
	教育実践課題解決研究Ⅳ（教育実践）	各自の研究課題解決のプロセスである「設定－探究－評価－見直し」を実施しながら、自らの課題解決を多角的に検討する。そして、各自の課題解決の内容や方法について報告書にまとめ、研究成果を発表・プレゼンテーションをする。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科 高度教職実践専攻 授業実践力開発コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース別選択科目	教師のキャリア発達と教育実践	<p>本授業では、教師のライフストーリー、職業的社会化論、キャリア研究といった教師の成長・発達に関わる学術的・理論的枠組に依拠して、教師がいかに自らの指導観、授業観を形成・変容させ、実践のなかから経験知を生成し、固有の教育実践を確立するにいたるかについて検討をおこなう。とりわけ新任期における教師の適応・成長過程に焦点づけ、これから入職する教師に広く求められる教育観、教育的パースペクティブの形成に資することを旨指す。</p> <p>オムニバス方式 (11回)・共同 (4回) / 全15回 (4 太田拓紀 / 11回) (オムニバス方式) 学生が自ら授業や教師を相対化する機会を提供し、新たな指導観・教育観を受容するための基盤を形成する。その上で、教育実践の現代的潮流と教師のキャリア発達に関する理論に基づき、教師としての資質能力の理解、専門職としての教師に求められる教育観の形成を促す。 (4 太田拓紀・24 黒川俊文 / 2回) (共同) 小学校における教育実践を通じた教師のキャリア発達や教師像について議論する。 (4 太田拓紀・23 石田博士 / 2回) (共同) 中学校における教育実践を通じた教師のキャリア発達や教師像について議論する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	プログラミング教育の実践と教材開発	<p>本科目では、プログラミング教育の実践と教材開発の手法を習得することを目的とする。プログラミング教育は、基本的に既存の教科の中で行われることになるため、その実践に当たっては、児童が教科の学びを深めると同時にプログラミング的思考も身に付けられるような配慮が必要となる。様々な教科内容に対応するため、コンピュータを用いないアンブラグド・プログラミング、タブレットやPCを用いたグラフィックス・プログラミングやサウンド・プログラミングなど、幅広い題材や機材を用いたプログラミングについて学ぶ。 共同 (全15回) (8 岳野公人・57 右田正夫 / 13回) (共同) (8 岳野公人・57 右田正夫・23石田博士・24 黒川俊文 / 2回) (共同) 附属小学校、附属中学校におけるプログラミング教育の実情を踏まえ、教育現場に求められるプログラミング教育の指導方法、教材について議論する。</p>	共同
	初等言語教育の理論と実践	<p>本科目は、初等教育における国語科及び英語科の授業に関する理論を取り上げ、授業実践の視点とアプローチの仕方を修得できるようにすることを目的とする。特に、言語教育の意義と役割、言語の機能について理解するとともに、授業実践に関する理論ならびに具体的な事例を取り上げながら初等言語教育を行うために必要な基礎論を身に付けられるようにする。</p> <p>オムニバス方式 (14回)・共同 (1回) / 全15回 (15 長岡由記・28 白石牧恵 / 1回) (共同) 国語科教育の概要、現状の課題について理解する。 (15 長岡由記 / 4回) (オムニバス方式) 言語教育の意義と役割、言語の機能について、国語科教育の視点から検討を行う。また、現在の国語科教育の課題を整理するとともに、主に初等教育に関する国語科教育の理論や実践に学びながら国語科授業デザインに向けた検討を行う。 (35 大嶋秀樹 / 5回) (オムニバス方式) 初等教育における言語教育の授業について、母語と第二言語・外国語の習得の共通点と違いについて取り上げ、初等教育段階での言語教育の実践とそのアプローチについて、具体的な事例を示しながら、母語・外国語教育の授業実践への視点・姿勢を育てる。 (71 田中佑美 / 5回) (オムニバス方式) 第二言語習得理論を踏まえて、授業実践に必要な音声インプットを重視した活動型の言語指導を検討する。具体的には、学習指導要領の目標の明確化、第二言語習得のプロセス、音声インプットと活動型の言語指導、指導計画、指導と評価の基礎を学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

コース別選択科目	授業実践力開発コース	言語教育実践と教材開発研究	<p>本科目は、小学校・中学校・高等学校における話し言葉、および書き言葉をめぐる諸問題を取り上げ、教材開発研究とそれに基づく教育実践について考えることを目的とする。話し言葉については、体系性や仕組み（音声・音韻・語彙・文法）について基礎的知識を確認するとともに、その変異や運用についても考える。書き言葉については、漢字、仮名の生成の経緯を確認するとともに、今日の言文一致表記について、学校における指導上の課題を整理し、発達段階や場面・状況に応じてどのような指導が考えられるのかを検討する。</p> <p>オムニバス方式（14回）・共同（1回）／全15回 （56 松丸真大／7回）（オムニバス方式）小学校・中学校・高等学校における話し言葉をめぐる諸問題を取り上げ、教材開発研究及び教育実践についての検討を行う。具体的には、話し言葉の体系性や仕組み（音声・音韻・語彙・文法）について基礎的知識を確認するとともに、その変異や運用について考える。 （46 中村史朗／7回）（オムニバス方式）小学校・中学校・高等学校における書き言葉をめぐる諸問題を取り上げ、教材開発研究及び教育実践についての検討を行う。具体的には、漢字、仮名の生成の経緯を確認するとともに、今日の言文一致表記について、学校における指導上の課題を整理し、発達段階や場面・状況に応じてどのような指導が考えられるのかを検討する。 （46 中村史朗・56 松丸真大／1回）（共同）国語科における教材開発・授業実践についてまとめ・発表をおこなう。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		古典教育と教材開発研究	<p>本科目は、中学校・高等学校における古典教材（古文・漢文）の実態を把握し、各校種における特質・ねらいなどを理解することを目的の一つとする。また、個別の教材を検討し、基礎的な読解力や指導力を確認した上で、古典文学に関する専門的知識を生かしつつ、自分なりのねらいと問題意識をもって古典教材を開発する能力を身につけることを目指す。</p> <p>オムニバス方式（14回）・共同（1回）／全15回 （32 井ノ口史／7回）（オムニバス方式）主として日本古典文学に関する中学校・高等学校の教材を採り上げ、各校種の到達目標をふまえつつ、韻文および散文の特質に関する検討及び各作品の精読を通して日本古典文学への理解を深めるとともに、実践の場にふさわしい教材を開発するための応用力を身につけることを目指す。 （48 二宮美那子／7回）（オムニバス方式）各校種・各教材におけるねらいをふまえつつ、作品の精読・周辺資料や指導案の検討を交え、幅広い視点から教材研究を行う。同時に、「国語における漢文」の背景にある基礎知識を確認する。以上を通して、自らの問題意識をもって教材を開発するための応用力を身につけることを目指す。 （32 井ノ口史・48 二宮美那子／1回）（共同）中学校・高等学校における古典教材開発・授業実践についてまとめ・発表をおこなう。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		英米文学と英語科教材開発への応用	<p>本講義では、中学・高校の英語教育において生徒が言語の背景にある文化に対する理解を深めることの重要性をふまえて、英米を中心に文学作品を参照し作品分析や考察を行いつつ、作品の背景としての文化を学ぶことにより、人々の生活や歴史、伝統、風俗習慣、物語など言語の背景にある文化についての知見を深め、そうした知識を活かして、言葉や文化への理解を深め、豊かな心情を育む教材を開発する能力を身に付けることを目指す。</p>	
		言語学理論と英語科教材開発への応用	<p>本講義は、小学校の英語教育においては、コミュニケーション能力開発の背景で英文法が担っている役割を理解すること、中学校・高等学校においては、文法能力が英語の理解と発信に主として機能していることを理解した上で、暗記にとどまらない英文法の教材開発の能力育成を目指す。具体的には、現代言語学生成文法理論の動詞意味論（動詞の意味と文の関係）と統語論（文構造の研究）の入門編を紹介する。次に、伝統文法を基盤としつつ、言語学の知見をどのように文法教材に応用できるかを議論する。</p>	共同
		初等社会科教育の理論と実践	<p>小学校の社会科の教育実践について、その現状と課題、その課題解決や学びの変革のための方法を考察する。そのために、社会科の歴史や理論、国内外の、これまでのすぐれた授業実践や今日的な先進事例を学び、実践的な教材開発を行う。</p>	

別紙様式第2号(その3の1)

コース別選択科目	授業実践力開発コース	社会科・地理歴史科教材開発研究	<p>本科目は、社会科・地理歴史科における先進的な教材開発を研究する。そのために、教科の基礎にある地理学・歴史学の人文・社会科学の最先端を学び、実践的に教材や単元のプランを開発する。</p> <p>オムニバス方式（12回）・共同（3回）／全15回 （33 宇佐見隆之・36 大清水裕・55 松田隆典・64 安藤哲郎／1回）（共同）社会科・地理歴史科の設立の意義とその後の変遷，社会科・地理歴史科の目標及び内容構成，社会科・地理歴史科の学習過程と指導方法の特徴について理解を深める。 （33 宇佐見隆之／3回）（オムニバス方式）日本史の内容に関して，専門的な知識・技能を習得すると共に，題材の実態を理解し，教材を開発する。 （36 大清水裕／3回）（オムニバス方式）世界史の内容に関して，専門的な知識・技能を習得すると共に，題材の実態を理解し，教材を開発する。 （55 松田隆典／3回）（オムニバス方式）地誌の内容に関して，専門的な知識・技能を習得すると共に，題材の実態を理解し，教材を開発する。 （64 安藤哲郎／3回）（オムニバス方式）系統地理の内容に関して，専門的な知識・技能を習得すると共に，題材の実態を理解し，教材を開発する。 （33 宇佐見隆之・36 大清水裕・55 松田隆典・64 安藤哲郎／2回）（共同）社会科・地理歴史科の教材開発の発表・まとめを行い，授業への活用の仕方と教材の評価を行う。地域社会との連携，他教科との関連，教科横断的な視点から，社会科・地理歴史科で育む資質・能力について総合的な理解を深める。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	社会科・公民科教材開発研究	<p>本科目は、社会科・公民科における先進的な教材開発を研究する。そのために、教科の基礎にある政治学・法学・社会学・哲学等の人文・社会科学の最先端を学び、実践的に教材や単元のプランを開発する。</p> <p>オムニバス方式（12回）・共同（3回）／全15回 （51 馬場義弘，39 齋藤浩文，63 渡邊暁彦，77 宮本結佳／1回）（共同）社会科・公民科の設立の意義とその後の変遷，社会科・公民科の目標及び内容構成，社会科・公民科の学習過程と指導方法の特徴について理解を深める。 （51 馬場義弘／3回）（オムニバス方式）政治学を背景とする内容に関して，専門的な知識・技能を習得すると共に，題材の実態を理解し，教材を開発する。 （39 齋藤浩文／3回）（オムニバス方式）哲学を背景とする内容に関して，専門的な知識・技能を習得すると共に，題材の実態を理解し，教材を開発する。 （63 渡邊暁彦／3回）（オムニバス方式）法学を背景とする内容に関して，専門的な知識・技能を習得すると共に，題材の実態を理解し，教材を開発する。 （77 宮本結佳／3回）（オムニバス方式）社会学を背景とする内容に関して，専門的な知識・技能を習得すると共に，題材の実態を理解し，教材を開発する。 （51 馬場義弘，39 齋藤浩文，63 渡邊暁彦，77 宮本結佳／2回）（共同）社会科・公民科の教材開発の発表・まとめを行い，授業への活用の仕方と教材の評価を行う。地域社会との連携，他教科との関連，教科横断的な視点から，社会科・公民科で育む資質・能力について総合的な理解を深める。</p>	オムニバス方式・共同（一部）	

<p>コース別選択科目</p>	<p>授業実践力開発コース</p>	<p>初等理数教育の理論と実践</p>	<p>本授業では、理数教育の実践（特に授業づくり）について、国内外の動向・現状を把握するとともに、教科横断的な課題意識をもち、その課題意識を念頭に置いて、録画授業によるビデオスタディなども含み、小学校授業、小学生を対象とした教材、インフォーマル教育等を分析する。このような取り組みを通し、具体的な授業で生じた事象・現象やその理論的分析を背景にして理数教育の展望について議論する。また、これらの学修を通して、様々な事象に対して知的好奇心を持つとともに、教科・科目の枠にとられない多角的、複合的な視点で事象を捉え、「数学的な見方・考え方」や「理科の見方・考え方」を豊かな発想で活用したり、組み合わせたりしながら、新たな価値の創造に向けて粘り強く挑戦する力の基礎を培わせるための教育実践力の習得を目指す。</p> <p>共同（9回）・オムニバス方式（6回）／全15回 （37 加納圭，7 高澤茂樹，81 渡邊慶子／3回）（共同） 共同開講3回分のうち、2回分は本講義期間の第1・2回に開講し、1回分は最終回に開講する。第1回目は本講義全体に係るオリエンテーションを行う（講義の目的・方法、成績評価に関することなどの合意を図る）。第2回目は「理数教育の現状と課題」に関わる講義をもとにして議論する。最終回は、全講義中でいずれか印象に残った学習内容・教材をプレゼンテーションし、それに関わる簡単な授業構成を述べる等、受講者どうしで互いに評価し合う取り組みを予定している。</p> <p>（7 高澤茂樹，81 渡邊慶子／6回）（共同） 第3～8回の講義は数学教育学を中心に開講される（全6回）。第3～5回（3回分）では、小学校算数科の中でも低～中学年段階の算数科授業に関して「幼少接続」の観点を踏まえて議論する。第6～8回（3回分）では、小学校算数科高学年段階の授業に関して「小中接続」の観点を踏まえて議論する。この際、ビデオによる授業の観察・授業記録の作成（第3・6回）、授業で用いられた教材の研究（第4・7回）、そして、ビデオで観察した授業に関する議論（第5・8回）をそれぞれ行う。</p> <p>（37 加納圭／6回）（オムニバス方式） 第9～14回の講義は理科教育学を中心に開講される（全6回）。第9～11回（3回分）では、小学校理科の中でも低～中学年段階の理科授業に関して「幼少接続」の観点を踏まえて議論する。第12～14回（3回分）では、小学校算数科高学年段階の授業に関して「小中接続」の観点を踏まえて議論する。この際、「探究」（第9・12回）「理科の見方・考え方」（第10・13回）に着目しながらまとめていく（第11回・14回）。</p>	<p>共同・オムニバス方式（一部）</p>
		<p>理科の発展的理解と指導法</p>	<p>本科目は、中学校および高校理科の内容を踏まえて、物質・エネルギー・生命・地球の各分野について広く扱い、特に受講者の興味・関心に応じて教材開発・授業研究に関する先行研究を調査したり、複数の単元の内容を関連付けたり、掘り下げたりする。それを受講者が深く理解したうえで、生徒に理科の基礎的内容を理解させる高度な指導法を習得させる。</p> <p>オムニバス方式（12回）・共同（3回）／全15回 （30 糸乗前，68 大山政光，44 恒川雅典，45 徳田陽明，49 服部昭尚，53 古橋潔／1回）（共同）</p> <p>理科の設立の意義とその後の変遷、理科の目標及び内容構成、理科の学習過程と指導方法の特徴について理解を深める。</p> <p>（30 糸乗前／2回）（オムニバス方式） 有機化学分野の内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、生体の仕組みを化学的な方法で捉えて生命現象を理解し、指導法に関して検討する。必要に応じて教材を開発する。</p> <p>（68 大山政光／2回）（オムニバス方式） 天文分野の内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態や児童・生徒の苦手なポイントを理解し、指導法に関して検討する。必要に応じて教材を開発する。</p> <p>（44 恒川雅典／2回）（オムニバス方式） 物理分野の内容に関して、専門的な知識、観察・実験技能を習得し、物理概念の本質的な理解を促すような教材の比較や改善の検討等を行う。</p> <p>（45 徳田陽明／2回）（オムニバス方式） 物理化学と無機化学の内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を調査し、理解する。必要に応じて教材を開発する。</p> <p>（49 服部昭尚／2回）（オムニバス方式） 生物の階層的分類と生活型、および相観に関する専門的な知識・技能を習得すると共に、生態系や遷移の実態を理解し、野外観察の教材を開発する。</p> <p>（53 古橋潔／2回）（オムニバス方式） 生物のマイクロなレベルの内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、必要に応じて教材を開発する。</p> <p>（30 糸乗前，68 大山政光，44 恒川雅典，45 徳田陽明，49 服部昭尚，53 古橋潔／2回）（共同）理科の教材開発の発表・まとめを行い、授業への活用の方と教材の評価を行う。物質・エネルギー・生命・地球の各分野について分野横断的な視点から、理科で育む資質・能力について総合的な理解を深める。</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

コース別選択科目	授業実践力開発コース	理科観察実験研究 「生命・地球」	本科目は、中学校および高校理科の内容を踏まえて、生命・地球の分野を中心に受講者の興味・関心が高い内容を研究対象とする。研究対象に関する専門的な観察・実験の方法について理解を深めつつ、教材開発も実施する。さらに、開発した教材の試行を通して高度な実践力の習得を目指す。 オムニバス方式 (12回)・共同 (3回) / 全15回 (68 大山政光・49 服部昭尚・53 古橋潔/1回) (共同) 「生命・地球」分野の目標及び内容構成、学習過程と指導方法の特徴について理解を深める。 (68 大山政光/4回) (オムニバス方式) 天文分野の内容に関して専門的な知識・技能を習得すると共に、天体観察・天文分野の観察実験における実態を理解する。必要に応じて教材を開発する。 (49 服部昭尚/4回) (オムニバス方式) 生命分野(生態・分類)における野外観察の方法とデータの扱いについての専門的な知識・技能を習得すると共に、生態系と生物群集の実態を理解し、教材を開発する。 (53 古橋潔/4回) (オムニバス方式) 生物を構成する細胞や分子のはたらきの内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (68 大山政光・49 服部昭尚・53 古橋潔/2回) (共同) 教材開発・研究内容の発表・まとめを行い、授業への活用の仕方や教材の評価を行う。生命・地球の分野について教科の専門的内容と教育実践内容の融合を目指した視点から、理科で育む資質・能力について総合的な理解を深める。	オムニバス方式・共同 (一部)
	授業実践力開発コース	理科観察実験研究 「物質・エネルギー」	本科目は、中学校および高校理科の内容を踏まえて、物質・エネルギーの分野を中心に受講者の興味・関心が高い内容を研究対象とする。研究対象に関する専門的な観察・実験の方法について理解を深めつつ、教材開発も実施する。さらに、開発した教材の試行を通して高度な実践力の習得を目指す。 オムニバス方式 (12回)・共同 (3回) / 全15回 (30 糸乗前・44 恒川雅典・45 徳田陽明/1回) (共同) 「物質・エネルギー」分野の目標及び内容構成、学習過程と指導方法の特徴について理解を深める。 (30 糸乗前/4回) (オムニバス方式) 有機化学の内容に関して、生命現象を化学的方法で解明するために必要な基礎的な知識の理解をはかり、生命についての科学的認識を深める。また種々の生体物質の化学構造と生理機能を解析するのに必要な実験実習を行い、中等教育における教材開発を行う。 (44 恒川雅典/4回) (オムニバス方式) 物理分野の内容に関して、巨視的世界と微視的世界の関係を意識しながら、観察・実験に求められる高度な知識を習得する。必要に応じて観察・実験を取り入れた教材開発を行う。 (45 徳田陽明/4回) (オムニバス方式) 物理化学と無機化学の内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (30 糸乗前・44 恒川雅典・45 徳田陽明/2回) (共同) 教材開発・研究内容の発表・まとめを行い、授業への活用の仕方や教材の評価を行う。物質・エネルギーの分野について教科の専門的内容と教育実践内容の融合を目指した視点から、理科で育む資質・能力について総合的な理解を深める。	オムニバス方式・共同 (一部)
	算数・数学科教材開発研究 「数と形」	算数科では「数」は天与のもものとされているが、構成することができる。そこで、数の理解を深めるために構成法を検討する。数学科では2次方程式の根の公式は扱われるが、3次以上は扱われない。そこで、低次方程式の根の公式について、その存在性も含めて検討する。また算数・数学科では「合同」と「相似」が扱われ、それらを用いて「図形」を分類している。相似は合同よりも大雑把に分類する。トポロジーという考え方をいければ、さらにもっと大雑把に分類することができる。ここでは、図形の理解を深めるために分類法を検討する。 オムニバス方式 (全12回)・共同 (全3回) / 全15回 (73 長谷川武博, 70 篠原雅史/1回) (共同) 算数・数学科の設立の意義とその後の変遷、算数・数学科「数と形」の目標及び内容構成、算数・数学科「数と形」の学習過程と指導方法の特徴について理解を深める。 (73 長谷川武博/6回) (オムニバス方式) 代数学の内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (70 篠原雅史/6回) (オムニバス方式) 幾何学の内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (73 長谷川武博・70 篠原雅史/2回) (共同) 算数・数学科「数と形」の教材開発の発表・まとめを行い、授業への活用の仕方と教材の評価を行う。他教科との関連、教科横断的な視点から、算数・数学科で育む資質・能力について総合的な理解を深める。	【隔年】 オムニバス方式・共同 (一部)	

コース別選択科目 授業実践力開発コース	算数・数学科教材開発研究「関数」	<p>数学における関数とは、二つの数量の関係を数学的に捉える基本概念である。関数は、それ自身が重要な数学的考察の対象であるだけでなく、事象を数理的に捉えるうえで基本的かつ重要である。その概念の修得は算数における教え上げ、比例・反比例といった数量関係の認識から始まっているが、学習が進むにつれてその取り扱いはともすれば形式的な操作の習熟にとらわれがちである。この授業では、数量関係を数学的に捉える活動の有用性・必要性について再認識し、教材開発を通してその活動の理論と実践について学ぶ。</p> <p>オムニバス方式 (10回)・共同 (5回) / 全15回 (42 鈴木宏昌・41 神直人/2回) (共同) 算数・数学科における関数の理論的背景を考察する。 (42 鈴木宏昌/5回) (オムニバス方式) 算数科の内容に関して、関数の概念を背景とする授業の専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (41 神直人/5回) (オムニバス方式) 中・高等学校の内容に関して、関数についての授業の専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (42 鈴木宏昌・41 神直人/3回) (共同) 算数・数学科の教材開発の発表・まとめを行い、授業への活用の仕方と教材の評価を行う。日常の事象における数量関係を数学的に捉えること、理科などとの教科横断的な視点から、算数・数学科で育む資質・能力について総合的な理解を深める。</p>	【隔年】 オムニバス方式・共同 (一部)
	数学の歴史を活かした数学教育	<p>数学には長い歴史があり、人類とともに成長してきた。授業に厚みをだすためには、教科の内容を深めると同時に数学史にも触れることが必要である。前半では洋算史を検討する。具体的には、古代から中世までの数学を検討する。後半では日本において江戸時代に発達した和算を検討する。具体的には、吉田光由や関孝和などを中心に検討する。また、必要があれば大学近郊の神社などに奉納されている「算額」なども見学する。</p> <p>オムニバス方式 (12回)・共同 (3回) / 全15回 (70 篠原雅史・73 長谷川武博/1回) (共同) 算数・数学科の設立の意義とその後の変遷、算数・数学科「数学史」の目標及び内容構成、算数・数学科「数学史」の学習過程と指導方法の特徴について理解を深める。 (70 篠原雅史/6回) (オムニバス方式) 幾何学の内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (73 長谷川武博/6回) (オムニバス方式) 代数学の内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (70 篠原雅史・73 長谷川武博/2回) (共同) 算数・数学科の教材開発の発表・まとめを行い、授業への活用の仕方と教材の評価を行う。他教科との関連、教科横断的な視点から、算数・数学科で育む資質・能力について総合的な理解を深める。</p>	【隔年】 オムニバス方式・共同 (一部)
	数学の実験を活かした数学教育	<p>算数・数学科における実験には大きく分けて2種類のもが存在する。1つは既習事項を確認するためのものである。(数学の授業の記憶として、四角錐の体積が同じ底面と高さを持つ四角柱の体積の1/3になることを確かめた経験を語るものもいる) もう1つは身近な事象に潜む数学を明らかにする活動である。(長方形の紙の底辺が定点を通るように折り続けると、折り目の包絡線として放物線が現れる) このように実験は算数・数学科の授業を豊かにしてくれる。この授業では、算数・数学科における実験の理論と実践について学ぶ。</p> <p>オムニバス方式 (10回)・共同 (5回) / 全15回 (41 神直人・42 鈴木宏昌/2回) (共同) 算数・数学科における実験の理論的背景を考察する。 (41 神直人/5回) (オムニバス方式) 算数科の内容に関して、実験を組み込んだ授業の専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (42 鈴木宏昌/5回) (オムニバス方式) 中・高数学科の内容に関して、実験を組み込んだ授業の専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (41 神直人・42 鈴木宏昌/3回) (共同) 算数・数学科の教材開発の発表・まとめを行い、授業への活用の仕方と教材の評価を行う。日常の事象との関連、理科などとの教科横断的な視点から、算数・数学科で育む資質・能力について総合的な理解を深める。</p>	【隔年】 オムニバス方式・共同 (一部)

コース別選択科目	授業実践力開発コース	初等体育科教育の理論と実践	<p>小学校学習指導要領における体育科の目標・内容の変遷を踏まえ、それらを具現化・実践化させてきた体育科の教材論や学習指導論について学ぶ。また、いつ頃の子どもに何がわかって、何ができるのか(適時性)の視点から、授業を学習者の側から評価する方法(体育授業診断法、よい授業のための到達度調査など)の意義についてフィールドワークを通して学ぶ。さらに、指導案作成と授業実践を通して小学校教員として必要な体育授業の計画作成、教材研究、授業のマネジメントと学習規律、雰囲気づくり、インストラクションやフィードバックなどの工夫について探究する。</p> <p>オムニバス方式 (12回)・共同 (3回) / 全15回 (9 辻延浩・67 大平雅子/3回) (共同)</p> <p>体育科の授業を行う教師に必要な資質・能力について、これまで自分が受けてきた授業をもとに考え合い、自分が理想とする授業について交流する(1回目)。体育領域および保健領域の授業を観察し理論的考察を行う(6回目)。採用前段階の学生が身に付けるべき体育および保健の授業実践力について総括する(15回目)。</p> <p>(9 辻延浩/10回) (オムニバス方式)</p> <p>小学校体育科のカリキュラム論や指導論、学習指導要領の変遷と現行学習指導要領の重要点について理解する。また、体育授業を客観的に観察評価する授業研究法について学び、「よい体育の授業」の要件について理解する。また、「主体的・対話的で深い学び」の授業の授業づくりについて講義で理解を深めたうえで、附属小学校での体育授業実践を観察させ、体育領域における授業デザインや授業展開、評価活動の具体について学ばせる。</p> <p>(67 大平雅子/2回) (オムニバス方式)</p> <p>附属小学校における保健授業実践を観察させ、保健領域における授業デザインや授業展開、評価活動の具体について学ばせる。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		体力科学実践研究	<p>中学校・高等学校保健体育の内容にかかわって、健康、運動・スポーツ、トレーニング、体力、発育発達、生活習慣、体格・形態等について、テーマ毎に学術論文等により最新情報をまとめることで、当該分野の専門的な知識を習得すると同時に、最新のエビデンスの教育実践への活用方法についてディスカッションを通して深く考察する。また、習得した知識を活用し、教育実践力向上に繋がる研究の計画を立案し、科学的視点を踏まえた教育について、さらに深く学ぶ。</p> <p>オムニバス方式 (14回)・共同 (1回) / 全15回 (9 辻延浩/4回) (オムニバス方式) 中学校・高等学校保健体育の目標・概要、現状と課題について理解する。</p> <p>(54 松田繁樹/10回) (オムニバス方式) 健康、運動・スポーツ、トレーニング、体力、発育発達、生活習慣、体格・形態等について、最新の学術論文等を精読し、理解を深める。最新のエビデンスの教育実践への活用方法について深く考察する。</p> <p>(54 松田繁樹・9 辻延浩/1回) (共同) 保健体育におけるエビデンスに基づいた授業実践についてまとめの発表を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		健康科学実践研究	<p>現代の子どもの心身の健康とその教育問題の解明に結びつく緊急課題や状況は常に変化している。この授業では、最近の子どもの健康課題の動向と国際的視点についての情報について学び、Project Based Learning型の演習を通じて健康管理や保健教育・健康教育を教育現場で遂行するための実践的技術の基礎を身に付ける。とりわけ、教育現場で今求められる医学医療の知識や技能の習得(医学的アプローチ)と、一人ひとりの児童生徒のその時々々の身体や心の状態に即して教育を実践する力の習得を目指す。</p> <p>オムニバス方式 (13回)・共同 (2回) / 全15回 (9 辻延浩・67 大平雅子/2回) (共同) 現代の子どもの心身の健康とその教育問題の解明に結びつく緊急課題や状況について、考え合い、交流する(1回目)。健康教育に関する教材や題材の発表・まとめを行い、教育実践力について総括する(15回目)。</p> <p>(67 大平雅子/11回) (オムニバス方式) 現代の子どもの心身の健康とその教育問題に関連する内容について、専門的な知識・技能を習得すると共に、実態を理解し、教材や題材を開発する。</p> <p>(9 辻延浩/2回) (オムニバス方式) 保健教育および健康教育の実践例を観察させたり、紹介し、理論的考察を行わせる。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

コース別選択科目	授業実践力開発コース	初等生活科・家庭科教育の理論と実践	<p>本科目は、初等教育における生活科・家庭科の授業に関する理論を取り上げ、教育実践の視点とアプローチの仕方を習得できるようにすることを目的とする。特に、生活科は具体的な活動や体験を通して、自立し生活を豊かにしていくことを目標とし、家庭科は実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することを目標としている。両科目とも、直接体験を重視し、自分の生活や身の回りの地域に関する学習活動を行う。本科目は、具体的な授業実践例を取り上げ、そこで用いる実験・実習などについて検討を行いながら、総合的な教育実践力の習得を目指す。</p> <p>オムニバス方式 (14回)・共同 (1回) / 全15回 (29 石川俊之/3回) (オムニバス方式) 生活科設立の意義とその後の変遷、および地域と連携した教材づくりについて理解を深める。 (78 森太郎/3回) (オムニバス方式) 生活科に関する実践と教材開発について演習を通して論考する。 (60 奥倉弘子/2回) (オムニバス方式) 家庭科衣生活と環境の内容に関する授業実践とそこで用いられる教材について、演習を通じて論考する。 (6 久保加織/2回) (オムニバス方式) 家庭科食生活と環境の内容に関する授業実践とそこで用いられる教材について、演習を通じて論考する。 (43 田中宏子/2回) (オムニバス方式) 家庭科住生活と環境の内容に関する授業実践とそこで用いられる教材について、演習を通じて論考する。 (76 平松紀代子/2回) (オムニバス方式) 家庭科家族・家庭生活と消費生活の内容に関する授業実践とそこで用いられる教材について、演習を通じて論考する。 (29 石川俊之, 78 森太郎, 60 奥倉弘子, 6 久保加織, 43 田中宏子, 76 平松紀代子/1回) (共同) 幼小連携や教科横断的な視点から生活科および家庭科で育む資質・能力について総合的な理解を深める。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		家庭科教育教材開発研究	<p>本科目は、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、現代的な諸課題を適切に解決できる能力の育成を目指した中等教育における家庭科の指導について学ぶ。さらに、家庭科の学習過程として重視される問題発見・解決学習型の授業で用いる教材の開発と評価を行う。</p> <p>オムニバス方式 (12回)・共同 (3回) / 全15回 (60 奥倉弘子・6 久保加織・43 田中宏子・76 平松紀代子/1回) (共同) 家庭科の設立の意義とその後の変遷、家庭科の目標及び内容構成、家庭科の学習過程と指導方法の特徴について理解を深める。 (60 奥倉弘子/3回) (オムニバス方式) 衣生活と環境の内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (6 久保加織/3回) (オムニバス方式) 食生活と環境の内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (43 田中宏子/3回) (オムニバス方式) 住生活と環境の内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (76 平松紀代子/3回) (オムニバス方式) 家族・家庭生活と消費生活の内容に関して、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材を開発する。 (60 奥倉弘子・6 久保加織・43 田中宏子・76 平松紀代子/2回) (共同) 家庭科の教材開発の発表・まとめを行い、授業への活用の仕方と教材の評価を行う。家庭や地域との連携、他教科との関連、教科横断的な視点から、家庭科で育む資質・能力について総合的な理解を深める。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		技術科教育教材開発研究	<p>本科目は、中学校の技術科の学習内容である材料と加工の技術、エネルギー変換の技術、生物育成の技術、情報の技術について最先端の教材研究や学習指導を学びつつ、技術科教育の推進のために地域のリーダーシップを取るための資質を身につける。</p> <p>オムニバス方式 (12回)・共同 (3回) / 全15回 (8 岳野公人・58 水上善博・78 森太郎/3回) (共同) 中学校の技術科の学習内容の概説。 (8 岳野公人/4回) (オムニバス方式) 材料と加工の技術に関する実践と教材開発について演習を通して論考する。 (78 森太郎/4回) (オムニバス方式) 生物育成の技術に関する実践と教材開発について演習を通して論考する。 (58 水上善博/4回) (オムニバス方式) エネルギー変換の技術、情報の技術に関する実践と教材開発について演習を通して論考する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

コース別選択科目 授業実践力開発コース	初等芸術教育の理論と実践	本科目は、初等教育における芸術科（音楽科、図画工作・美術科）の授業に関する理論を取り上げ、授業実践の視点とアプローチの仕方を修得できるようにすることを目的とする。芸術科（音楽科、図画工作・美術科）の本質や目標および内容構成、校種連携や教科横断的な視点から「音楽科の見方・考え方」と「図画工作・美術科の見方・考え方」を働かせて児童が主体的に意味や価値を創造することができる授業実践に関する理論ならびに具体的な事例を取り上げ、初等教育における芸術科の教育実践力の習得を目指す。 オムニバス方式（12回）・共同（3回）／全15回 （10 林睦・18 村田透／1回）（共同）芸術科の目標・概要、現状と課題について理解する。 （10 林睦／6回）（オムニバス方式）音楽科の本質や目標、内容構成（歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞）、授業計画、評価、授業事例について習得する。 （18 村田透／6回）（オムニバス方式）図画工作・美術科の本質や目標、内容構成（造形遊び、絵・立体・工作、鑑賞）、授業計画、評価、授業事例について習得する。 （10 林睦・18 村田透／2回）（共同）校種間連携や教科教科横断的な視点から芸術科で育む資質・能力について総合的な理解を深める。	オムニバス方式・共同（一部）
	美術科教材開発研究 「造形表現」	図画工作・美術科における造形表現（図画工作科：絵・立体・工作、美術科：絵・彫刻・デザイン・工芸）の内容について、体験的な学習活動を通して専門的な知識・技能を習得することを目指す。それと共に図画工作・美術科の造形表現の題材の実態（教科書題材の内容、材料や用具の特性や使用方法、表現と鑑賞との関係性、授業計画、学習評価など）を把握し、児童・生徒が「図画工作・美術科の見方・考え方」を働かせて主体的に意味や価値を創造することができる造形表現の教材・題材を開発する。 オムニバス方式（14回）・共同（1回）／全15回 （61 世ノ一善生／7回）（オムニバス方式）平面的な造形表現（図画工作科：絵・工作、美術科：絵・デザイン・工芸）の内容について、専門的な知識・技能の習得すると共に、題材の実態を理解し、教材・題材を開発する。 （52 藤田昌宏／7回）（オムニバス方式）立体的な造形表現（図画工作科：立体・工作、美術科：彫刻・工芸）の内容について、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材・題材を開発する。 （61 世ノ一善生・52 藤田昌宏／1回）（共同）図画工作・美術科における造形表現の教材・題材開発の発表・まとめを行う。	オムニバス方式・共同（一部）
	美術科教材開発研究 「美術鑑賞」	図画工作・美術科における美術鑑賞の内容について、体験的な学習を通して専門的な知識・技能を習得することを目指す。それと共に図画工作・美術科の美術鑑賞の題材の実態（教科書題材の内容、多様な鑑賞対象や鑑賞方法、表現と鑑賞との関係性、授業計画、学習評価など）や美術館での美術鑑賞の実態を把握し、児童・生徒が「図画工作・美術科の見方・考え方」を働かせて主体的に意味や価値を創造することができる美術鑑賞の教材・題材を開発する。 オムニバス方式（14回）・共同（1回）／全15回 （47 新関伸也／1回）（オムニバス方式）美術鑑賞の目標・概要、学校教育や美術館などの美術鑑賞の現状と課題について理解する。 （47 新関伸也／5回）（オムニバス方式）美術鑑賞（絵画、工芸）について、専門的な知識・技能を習得する。 （52 藤田昌宏／2回）（オムニバス方式）美術鑑賞（彫刻）について、専門的な知識・技能を習得する。 （61 世ノ一善生／2回）（オムニバス方式）美術鑑賞（デザイン）について、専門的な知識・技能を習得する。 （47 新関伸也／4回）（オムニバス方式）学校教育での美術鑑賞について、教材・題材を開発する。 （47 新関伸也・52 藤田昌宏・61 世ノ一善生／1回）（共同）図画工作・美術科における美術鑑賞の教材・題材開発の発表・まとめを行う。	オムニバス方式・共同（一部）

別紙様式第2号(その3の1)

コース別選択科目	授業実践力開発コース	音楽科教材開発研究「表現」	音楽科における表現（歌唱、器楽、音楽づくり・創作）の内容について、専門的な知識・技能を習得すると共に、学校教育の場における実践を想定した教材・題材の開発を行う。 オムニバス方式（14回）・共同（1回）／全15回 主に歌唱の内容について、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材・題材を開発する。 （80 渡邊史／7回）（オムニバス方式） 主に器楽の内容について、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材・題材を開発する。 （31 犬伏純子／7回）（オムニバス方式） 音楽科における表現の教材・題材開発の発表・まとめを行う。 （80 渡邊史・31 犬伏純子／1回）〈共同〉 音楽科における表現の教材・題材開発の発表・まとめを行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		音楽科教材開発研究「鑑賞」	音楽科における鑑賞の内容について、専門的な知識・技能を習得すると共に、学校教育の場における実践を想定した教材・題材の開発を行う。また、表現と鑑賞の関連についても取り扱うこととする。 オムニバス方式（13回）・共同（2回）／全15回 （72 中根庸介・62 若林千春／1回）（共同）鑑賞の目標・概要、現状と課題について理解する。 （72 中根庸介／6回・62 若林千春／7回）（オムニバス方式）鑑賞の内容について、また鑑賞と表現の関連について、専門的な知識・技能を習得すると共に、題材の実態を理解し、教材・題材を開発する。 （72 中根庸介・62 若林千春／1回）（共同）音楽科における鑑賞の教材・題材開発の発表・まとめを行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		教育実践課題解決研究Ⅰ（授業実践）	共通科目、コース別選択科目での学びを深め、実習科目での学びと関連づけながら、教育実践課題解決での実践研究を進める。その中で、それぞれの教科や領域の研究内容を理解しながら、研究方法についても学ぶ。	共同
		教育実践課題解決研究Ⅱ（授業実践）	教育実践課題解決での学びを実習科目での学びと関連づけながら、各教科教育の理論と実践の往還のあり方について学ぶ。その上で、各自の実践研究テーマを設定し、それぞれの課題解決のプロセスやその結果を、PDCAサイクルに基づいて省察する。	共同
		教育実践課題解決研究Ⅲ（授業実践）	各自の研究課題解決のプロセスである「設定－探究－評価－見直し」を実施しながら、自らの課題解決を多角的に検討する。そして、各自の課題解決の内容や方法を整理しながら報告書にまとめるための準備をする。	共同
		教育実践課題解決研究Ⅳ（授業実践）	各自の研究課題解決のプロセスである「設定－探究－評価－見直し」を実施しながら、自らの課題解決を多角的に検討する。そして、各自の課題解決の内容や方法について報告書にまとめ、研究成果を発表・プレゼンテーションをする。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科 高度教職実践専攻 ダイバーシティ教育力開発コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ダイバーシティ教育力開発コース 別選科目	スペシャルニーズ教育の理論と実践	多様な教育的ニーズを持つ子どもたちへの対応として、主に、授業づくり・学級づくり・学校づくりの視点から考える。文献講読や実践をふまえた討論などを通じて、発達障害や特別な教育的ニーズについての知見を得るとともに、教育実践を支える諸条件（子ども観、授業観、学力観、教育課程、教育方法、教材開発など）について理解を深めることを目的とする。また、幼稚園・小学校・中学校における巡回相談の事例を通して、教育現場で子どもたちの抱えている困難やニーズを理解し、教育的対応のあり方について学ぶ機会とする。	共同
	子どもの心の臨床心理学的理解と支援	臨床心理学の基本的な理論をもとに「子どもの心」の理解と支援について、学校現場で役に立つ実践的学びを深めることを目的とする。青少年の自殺、不登校、いじめ、暴力といった行動の問題、精神の病、発達特性や障害、愛着障害等の心の問題について基本的な知識を身に付け、生物心理社会的なアセスメントについて学ぶ。さらに、実際にあり得る事例を取り上げて、その理解の仕方、関わり方、学校内外との連携などについて検討し、ロールプレイ等のワークを通し、技法の体得による実践知の獲得を目指す。 (オムニバス方式/全15回) (3 芦谷道子/12回) (オムニバス方式) 学校における子どもたちの心の問題、精神の問題について知識を習得し、事例を通して教育的支援への活かし方を討論、探求する。ロールプレイを通して実践的学びを深める。 (27 川島民子/3回) (オムニバス方式) 学校での実際事例を取り上げ、学内外における連携の仕方について学ぶ。	オムニバス方式
	心理的アセスメントと子ども支援	子どもの心理、発達や障害の状態を理解する方法の一つとして知能検査や発達検査、投影法など様々な心理的アセスメントについての基本的知識を習得する。さらに、多様な教育的ニーズをもつ子どもたちの実態と心理検査との関係について理解するとともに、学校教育における臨床的応用可能性について議論する。 オムニバス方式 (10回)・共同 (5回) / 全15回 (19 松島明日香・3 芦谷道子/1回) (共同) 初回の1回ではアセスメントの考え方と心理テストの種類、テストバッテリーを学校での支援にどのように生かすかについて概説し、アセスメントの全体像を把握する。 (19 松島明日香/5回) (オムニバス方式) 知能検査、発達検査について体験のうえ修得し、事例を通して教育的支援への活かし方を討論、探求する。 (19 松島明日香・27 川島民子/2回) (共同) 知能検査、発達検査による見立てを実際に教育現場において活用した実践例を知り、実践的課題を見出した上で解決策と今後の展望について検討する。 (3 芦谷道子/5回) (オムニバス方式) 自己記述式質問紙、投影法について体験のうえ修得し、事例を通して教育的支援への活かし方を討論、探求する。 (3 芦谷道子・27 川島民子/2回) (共同) 自己記述式質問紙、投影法による見立てを実際に教育現場において活用した実践例を知り、実践的課題を見出した上で解決策と今後の展望について検討する。	オムニバス方式・共同(一部)

コース別選択科目 ダイバーシティ教育力開発コース	外国人児童生徒教育の理論と実践	諸外国における移民や先住民等の文化的に多様な子どもの実態と教育実践事例及び多文化教育やインクルーシブ教育等の諸理論について考察し、言語、文化、生育背景の面で子どもの多様化が進む国内の外国人児童生徒教育の実践のあり方を検討する。文化的に多様な子どもの指導に必要なダイバーシティ教育力の開発を目指す。	
	特別支援教育の臨床的探究	主として幼稚園、小学校、中学校における特別支援教育の現状と課題を理解し、インクルーシブ教育の在り方を探求することを目的とする。障害のある子の理解、障害の早期発見、就・修学指導と教育相談、個への支援と集団づくり、交流及び共同学習、障害理解教育、保護者支援、校内体制や学校外との協働体制などについて、事例をもとに具体的に考察、討論する。また、個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成を試みる。	共同
	幼年教育の理論と実践	就学前教育の現状と課題、幼児教育の理論及び方法、教育・保育に関するエビデンス等を理解し、教育・保育のあり方について探求することを目的とする。特に、幼児期における遊びを中心とする生活や学びの意義、幼児教育及び早期教育の各種方法論や教材、小1プロブレムの実態や対応策、幼保小連携のあり方などについて、事例をもとに具体的に理解する。さらに、待機児童や学童保育などの教育・保育の実態や課題を知り、子どもの健全発達に寄与する学校と地域・家庭の連携のあり方についても学ぶ。 (共同/全15回) (2 奥田援史, 27 川島民子/13回) (共同) (2 奥田援史, 27 川島民子, 25 西村佳子/2回) (共同) 附属学校園での参与観察、それに基づく研究討論を行う。	共同
	教育・保育の方法と省察	省察を中心とした教育・保育の方法について扱う。子どもの姿や教育環境の意味を深めるための省察方法を身につけ、実践を多角的に捉えていくことを目指す。リアリスティック・アプローチを中心とした理論について学びつつ、具体的な事例の省察にそれを活用することを通して、実践的に学んでいく。	共同
	特別支援教育授業研究	知的障害児や発達障害児の発達と障害をふまえた指導はどうあるべきか、授業づくり、教育課程、教育内容、個と集団の関係等について学ぶ。特別支援学校及び特別支援学級の教育実践の特徴を考慮しつつ、主として知的障害児、発達障害児を対象とした実践記録を分析しながら、発達と障害をふまえた指導上の留意点、教育課程、教育内容、授業づくりについて講義し討論する。	【隔年】 集中
	障害児の発達診断・発達相談演習	障害児者の教育実践に資するアセスメント、発達診断について、その意義と留意点を理解し、発達検査に基づく発達診断の方法に習熟することを目的とする。乳児期から学齢期半ばまでを対象にした発達検査（新版K式発達検査）の概要と手続き、結果の読み取り、発達相談について講義する。また、受講者が実際に発達検査を行ない、アセスメント・レポートを書く演習を行なう。さらに、指導や支援の課題を具体的に考察する。	【隔年】 集中
	多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応	多様な教育的ニーズに応える教育実践を進めていくうえで欠かせない他機関との連携・協働やアセスメント（新版K式発達検査）や教育相談の進め方などについて、幼稚園・小学校・中学校における巡回相談の事例を通して、実際のアセスメント結果の読み取りや事例検討を交えて概説する。校内委員会や特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制のあり方や、担任として子どもの状態を正しくとらえ、保護者の不安や願いを受けとめ、適切に情報提供を行っていくために必要な力量を身につけることをめざす。	【隔年】 集中

コース別選択科目 ダイバーシティ教育力開発コース	障害児の心理と学校教育	自閉症スペクトラム, ADHD, LDを中心とする神経発達障害の心理学的理解と教育的支援のあり方について理解を深めることを目的とする。特に自閉症スペクトラムを取り上げ、その認知発達の特徴やコミュニケーションの発達、感覚・運動の問題について最近の研究動向を踏まえた知見を得るとともに、その理解と教育方法について考察を深める。	【隔年】 集中
	障害児の心理と子ども支援	心理アセスメントの理論的背景を概観するとともに個別式の知能検査や発達検査の演習をおこない、当該検査に基づいた診断技術の習得を図る。具体的には、幼児期・学齢期の認知発達の特徴を学ぶとともに、WISC-IVを用いた演習をおこない、検査の実施方法に習熟し、結果の解釈並びに今後の指導・支援計画を含んだアセスメント・レポートが作成できるまでの力量を身につける。	【隔年】 集中
	特別支援教育の教育方法学的探究	障害のある子ども、外国にルーツを持つ子ども、貧困家庭の子どもなど何らかの特別な教育的ニーズを持つ子どもたちに向けて行われる教科指導や生活指導について、映像資料や実践記録を取り上げて、教育方法学の見解を援用しながら議論を行っていく。	【隔年】 集中
	特別支援教育の現代的実践と課題	障害のある子ども、外国にルーツを持つ子ども、貧困家庭の子どもなど何らかの特別な教育的ニーズを持つ子どもたちに向けて行われる教科指導や生活指導について、最新の動向を明らかにするような実践記録や研究報告を調査し、分析を加えて発表する。また、教育方法学の見解を意識した議論を行うことにより、分析を深めていく。	【隔年】 集中
	障害児の病理と教育支援	障害児の支援を行う上で必要となる神経解剖学・生理学について概説し、次に近年教育現場に浸透し始めている、障害児支援としての作業療法や理学療法を取り上げる。その上で、障害特性や重症度に応じた支援のありかたについて考える。	【隔年】 集中
	障害児の病理と健康支援	家庭および学校における障害児の健康を維持・増進するための基礎知識および方法論を概説する。障害児病理および小児保健の重要なトピックス(学校保健、感染予防、栄養障害、小児の事故、危機管理、虐待、自殺、不登校、精神保健など)を取り上げる。	【隔年】 集中
	子どもの発達と支援	子どもの発達を正しく理解し、実践力を身につけるには、理論と実践の両面を総合的に学ぶ必要がある。前半部では、発達心理学の理論や日常場面での現れ、発達研究の手法や問題へのアプローチ法を講義する。後半部では、中枢神経系の構造および機能の面から、発達障害および高次脳機能障害等について概説し、適切な支援のあり方に言及する。これらを通じ、養育者・教師へのコンサルテーションや支援対象者とのコミュニケーションについて考察を深める。 オムニバス方式(14回)・共同(1回)／全15回 (13 渡部雅之／9回) (オムニバス方式) 発達上の特性や能力に関する測定及び評価の理論的方法と課題について解説する。 (34 江原寛昭／5回) (オムニバス方式) 障害児理解に必要な医学的事項(神経系の構造および機能)およびそれらを踏まえた支援について概説する。 (13 渡部雅之・34 江原寛昭・26 細谷 亜紀子／1回) (共同) 発達上の支援のあり方についてグループディスカッションを通じて考察を深める。	オムニバス方式・共同(一部)

別紙様式第2号(その3の1)

ダイバーシティ教育力開発コース 別選択科目	教育実践課題解決研究A I (ダイバーシティ)	遊びを中心とした生活や学びを深めるための環境整備, 幼児教育・保育のための方法論や教材の開発, あるいは幼保小連携等に関して, 子ども達一人ひとりの個性と教育ニーズを十分に踏まえた教育・保育プラン等の作成を目指す。そのために, 課題に対して資料収集を含めてどのように追究していくのか計画を立て, 解決のプロセスをPDCAサイクルに基づいて自己点検させる。	共同
	教育実践課題解決研究A II (ダイバーシティ)	教育実践課題解決研究A Iの演習, 実習, フィールドワークを踏まえて, 教育・保育プラン等を作成する。課題解決のPDCAサイクルに基づく作業を省察し, 実践報告レポートとしてまとめ, プレゼンテーションを行わせる。これらを通じて, 実践課題解決過程の基本や先行研究の知見や論文作成の方法などを理解しながら, 実践課題を多角的に分析する力量を培う。	共同
	教育実践課題解決研究A III (ダイバーシティ)	教育実践課題解決研究A I, A IIの演習, 実習, フィールドワークを踏まえて作成した教育・保育プラン等を実践場面にあてはめて検証し, よりよいプランへ改善を進める。このプロセスを通して, ダイバーシティ教育力開発コースにおける2年間の学びを総括し, プランの完成を目指す。	共同
	教育実践課題解決研究A IV (ダイバーシティ)	教育実践課題解決研究A I～IIIの演習, 学校実習, フィールドワークを踏まえて作成した, 子ども達一人ひとりの個性と教育ニーズを十分に踏まえた踏まえた教育・保育プラン等を完成させる。プラン等の効果について, 本学大学院の教員及び大学院生だけでなく, 滋賀県教育委員会関係者, 学校関係者, 実習施設関係者等に向けてプレゼンテーションを行う。	共同
	教育実践課題解決研究B I (ダイバーシティ)	各講義や実習経験をもとに, 自らの問題意識を明確にし, 実践課題(テーマ)を策定する。そして, そのテーマに関連した資料・文献の収集および先行研究の検討を通して知見を深める。課題解決のための基本的学びとして, 論文作成の方法についても理解しながら, 実践課題を多角的に分析する力量を培う。	共同
	教育実践課題解決研究B II (ダイバーシティ)	自らが設定した実践課題(テーマ)に沿って, 先行研究の検討及びフィールドワークを進める。実習先での実践についてレポートにまとめたり, プレゼンテーションを行ったりする機会を通して, 自己の実践課題をより明確化する。研究の途中経過についてまとめ, 発表する。	共同
	教育実践課題解決研究B III (ダイバーシティ)	これまでの講義や多様なフィールドにおける実習経験をもとに, 自らの探究課題(テーマ)を確定する。設定したテーマをもとにプレゼンテーションを行い, 多角的な視点で課題解決のための方法論を構築する。また, 先行研究の検討およびフィールドワークを通して, 「発見・策定-探究-評価-見直し」(PDCA)のプロセスで研究を進める。	共同
	教育実践課題解決研究B IV (ダイバーシティ)	自己の実践課題(テーマ)に沿ってフィールドワークを進め, 考察の結果をまとめる。研究成果について発表する。	共同

国立大学法人滋賀大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
滋賀大学				滋賀大学				
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	230	-	920	学校教育教員養成課程	230	-	920	
経済学部				経済学部				
経済学科				経済学科				
屋間主コース	165	5	670	屋間主コース	165	5	670	
夜間主コース	11	-	44	夜間主コース	11	-	44	
ファイナンス学科				ファイナンス学科				
屋間主コース	55	3	226	屋間主コース	55	3	226	
夜間主コース	9	-	36	夜間主コース	9	-	36	
企業経営学科				企業経営学科				
屋間主コース	75	4	308	屋間主コース	75	4	308	
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	10	-	40	
会計情報学科				会計情報学科				
屋間主コース	50	3	206	屋間主コース	50	3	206	
夜間主コース	9	-	36	夜間主コース	9	-	36	
社会システム学科				社会システム学科				
屋間主コース	65	5	270	屋間主コース	65	5	270	
夜間主コース	11	-	44	夜間主コース	11	-	44	
データサイエンス学部				データサイエンス学部				
データサイエンス学科	100	-	400	データサイエンス学科	100	-	400	
計	790	20	3200	計	790	20	3200	
滋賀大学大学院				滋賀大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
(修士課程)				(修士課程)				
学校教育専攻	35	-	70	学校教育専攻	0	-	0	令和3年4月学生募集停止
(専門職学位課程)				(専門職学位課程)				
高度教職実践専攻	20	-	40	高度教職実践専攻	35	-	70	研究科の専攻の設置(事前伺い)
経済学研究科				経済学研究科				
(博士前期課程)				(博士前期課程)				
経済学専攻	13	-	26	経済学専攻	13	-	26	
経営学専攻	13	-	26	経営学専攻	13	-	26	
グローバル・ファイナンス専攻	6	-	12	グローバル・ファイナンス専攻	6	-	12	
(博士後期課程)				(博士後期課程)				
経済経営リスク専攻	3	-	9	経済経営リスク専攻	3	-	9	
データサイエンス研究科				データサイエンス研究科				
(博士前期課程)				(博士前期課程)				
データサイエンス専攻	20	-	40	データサイエンス専攻	40	-	80	定員変更(20)
(博士後期課程)				(博士後期課程)				
データサイエンス専攻	3	-	9	データサイエンス専攻	3	-	9	
計	113	-	232	計	113	-	232	
滋賀大学専攻科				滋賀大学専攻科				
特別支援教育専攻科				特別支援教育専攻科				
障害児教育専攻	30	-	30	障害児教育専攻	30	-	30	
計	30	-	30	計	30	-	30	